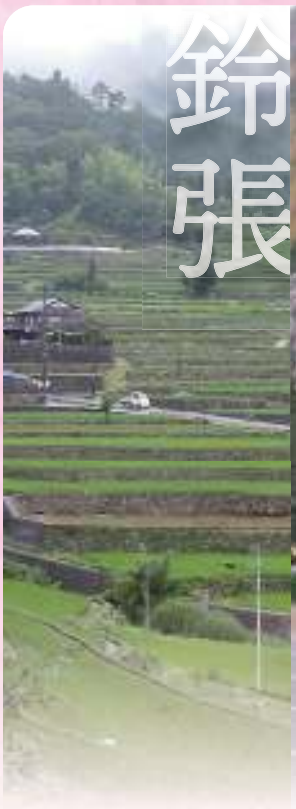
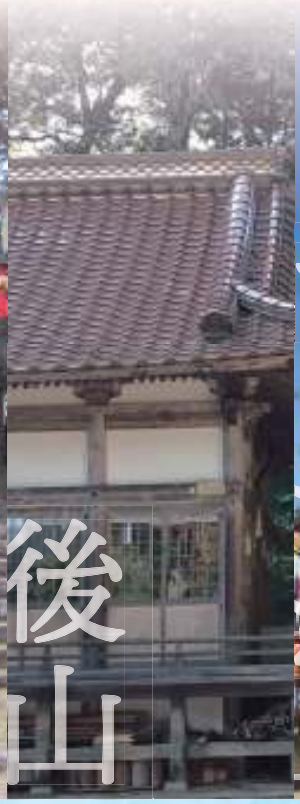
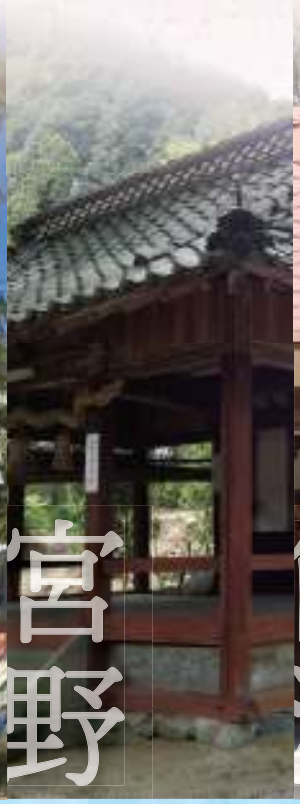


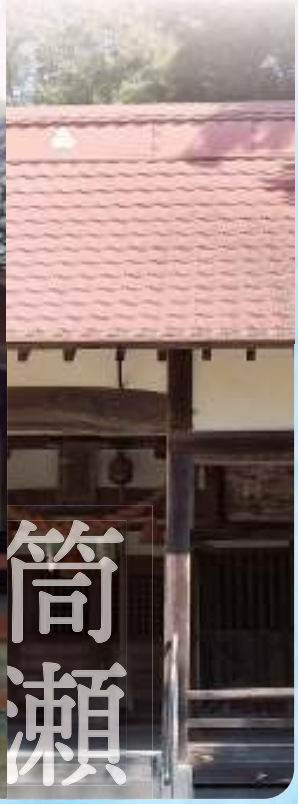
ふるさと まち歩き

安佐町の魅力再発見

安佐町の自然や歴史を訪ねてみたら
いろんな魅力が再発見できますよ！







歩いてみんさい わしらの安佐町

安佐町の玄関口、飯室地区の町並み。
安佐町の学び舎「清和中学校」と安佐町民の交流の場所「安佐公民館」を望む

安佐町の自然や歴史その魅力を再発見！

安佐町は広島市の北西端に位置し、標高859・6mの堂床山を最高峰に急峻な山々が周囲を囲んでいます。地域の中心には太田川が北西から南東に貫流し、自然豊かな風景が広がっています。気軽に自然に触れることができ、季節によって移り変わる景色を愛で、季節の味覚を味わうことができます。

昭和30年3月31日、安佐郡の鈴張村、飯室村、久地村、日浦村、小河内村の5か村が合併して安佐町が誕生しました。安佐町の町名は、「安佐郡内初の、村が合併して誕生した町」から郡名の「安佐」が採用されました。昭和46年5月20日には広島市と合併し、広島市安佐町（政令指定都市昇格後は安佐北区安佐町）となり現在に至っています。

安佐公民館50周年記念

本誌は安佐公民館が平成31年4月1日で開館50周年を迎えたことから、記念事業として安佐公民館運営委員会が制作、発行しました。地域の皆様や安佐町を訪れる皆様に安佐町の魅力を感じられるよう、四季折々の自然の美しい場所や歴史跡などを紹介しています。本誌を活用していただくことで安佐町の魅力を再発見し、より地域の絆が深まることを願っています。

各地区の魅力を紹介

安佐町はとても広大なので、本誌では安佐公民館が管轄する地区と日浦公民館が管轄する地区に分けて、それぞれ5地区の史跡などを紹介しています。それぞれの地区で季節ごとの魅力があります。時季を選んで訪れてみてはいかがでしょうか。

もくじ

1 歩いてみんさい わしらの安佐町
2 安佐町全体マップ
3 安佐町の魅力再発見
5 《自然・景観》
6 《施設・公園》
41 《出身の画家》
42 《お祭り》
《お食事処》
あとがき

7 鈴張
11 飯室
15 小河内
19 久地
23 久地南
27 毛木
29 後山
33 あさひが丘
35 宮野
37 筒瀬

これから、
大好きな安佐町を紹介します。
一緒に安佐町を
歩いてみようよ！
北広島町
至 豊平
至 三次
小河内
鈴張
片廻山
(682.0m)
安佐SA
鈴張小学校
鈴張街道
滝山
(692.4m)
広島市青少年
野外活動センター
こども村
堂床山
(859.6m)
中国自動車道
広島北Jct
牛頭山
(689.0m)
至 戸河内
安芸太田町
至 加計
飯室
右平「花園の里」
しゃくなげ園
飯室小学校
清和中学校
安佐公民館
広島北
久地北
太田川げんき村
本串山
(572.5m)
加計街道
久地
宇賀ダム
至 可部
太田川
笹ケ丸山
(648.0m)
久地冠山
(572.6m)
水越山
広島市安佐北区
久地通り
久地小学校
尻高山
(556.3m)
高八山
(429.4m)
毛木
宮野
権現山
(490.3m)
ふれあいの里 三国
花みどり公園
日浦中学校
日浦公民館
日浦小学校
久地南
広島自動車道
あさひが丘
後山
筒瀬
久地南小学校
久地PA
広島市安佐動物公園
押上山
(321.1m)
筒瀬小学校
野登呂山
(452.8m)
荒谷山
(630.9m)
阿武山
(585.9m)
岳山
(521.5m)
広島市安佐南区
あたしは安佐公民館の、
あさこちゃんです。
安佐町の清流で暮らす
ヨシノボリなのよ！
あさこちゃん
ぼくは日浦公民館の、
ひうら丸だよ。
平家の子孫で、
流鏑馬(やぶさめ)が得意なんだ。
ひうら丸

安佐町の魅力再発見

《自然・景観》

現在も山林が８割近くを占める安佐町は自然豊かな地域です。
青い空、澄んだ空気、清らかな水にいつでも触れることができ、
四季折々にはいろいろな景色を楽しませてくれます。

棚田（安佐町各地区）

山々の傾斜を利用した棚田は、小河内川を挟んで両側一体に広がる小河内地区（写真左）と、鈴張明神峠にさしかかる一帯に鈴張川を挟んで両側に広がる鈴張地区（写真右）の他、安佐町各地で見ることができます。
田植えから稲刈りまで、鮮やかな緑から黄金色に変わる景色、収穫後の雪景色など年間を通して楽しめます。

ホタル（安佐町各地区）

安佐町を流れる太田川の支流には澄んだ水が流れ、花崗岩が浸食されてできた砂や小石が堆積した川底にはホタルの餌となるタニシやカワニナもたくさん生息しています。
５月後半から６月中旬にかけ、町内各地の川で光を灯しながら飛び交うゲンジボタルの幻想的な夜景を観賞することができます。

宇賀峡（久地地区）

久地地区にある宇賀峡は広島の秘境とも言われる景勝地で、太田川支流の高山川上流にあります。季節ごとに咲く山野草やヤマメ釣りなど、ハイカーや釣り人の人気が高い峡谷です。緑豊かな山々に囲まれ自然を身近に感じることができます。

時代を見続けてきた巨木たち

大エノキ（宮野地区）

宮野地区の宮野八幡神社の大エノキは、幹周4.2m樹高30mで県内第二位の巨樹と言われ市の天然記念物に指定されています。

ヤマザクラ（後山地区）

後山地区の巨大ヤマザクラ・エドヒガンは、日浦権現山の中腹に立ち幹周は約4.4m。３月下旬から４月中旬に満開時期を迎えますので、里山の春を感じられます。

千年杉（久地地区）

久地地区の千年杉は、幹周は約12.2mで樹齢は推定600年から700年と言われています。岳山登山道の途中の傾斜地に見ることができます。

静寂に包まれ 古に思いを馳せる社叢

養山八幡神社（小河内地区）

小河内地区の養山八幡神社の社叢は、ツクバネガシ、ヤブツバキ、カヤなどの暖帯常緑広葉樹林で、１年を通して爽やかな風と緑に癒される場所。市の天然記念物に指定されています。

筒瀬八幡神社（筒瀬地区）

筒瀬地区の筒瀬八幡神社の社叢は、アラカシ、タブノキ、ナナメノキなどの常緑広葉樹林で、時折り風に吹かれ葉と葉がすれる音が神秘さを醸し出します。市の天然記念物に指定されています。

安佐町の魅力再発見

《 施設・公園 》

安佐町内には豊かな自然環境を生かした施設や公園があります。
農業体験や動・植物とのふれあいなど、ここでしかできない体験を、たっぷり堪能しましょう。

久地北・太田川げんき村

宇賀峡の下流域にある施設で、四季折々の自然と心和む景色や人に会える場所です。山野草を食べる会やホタルの夕べ、こんにゃくづくりなど、さまざまなイベントを楽しむことができます。

広島市安佐北区安佐町久地
※イベント情報などは安佐公民館へお問い合わせください。
安佐公民館 ☎082-835-0111

ふれあいの里 三国 花みどり公園

広大な公園内に四季折々の花が咲きほこる。特にシャクナゲは170品種、5500本が植えられ、4月上旬から5月下旬にかけて色とりどりの美しい花が咲きます。園内は「シャクナゲの国」、「わんぱくの国」などのゾーンがあり大人から子供まで楽しむことができます。

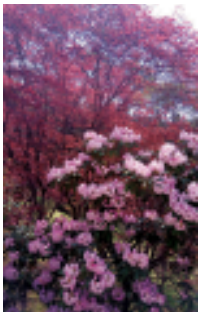
広島市安佐北区安佐町久地2411-1 ☎082-837-1247
営業時間 / 9:00～16:30（ドッグランは16:00まで）
休 園 日 / 火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

右平「花園の里」しゃくなげ園

自然を活かした遊歩道が整備され、3月下旬からは山桜、4月から5月中旬までは1万5千本のシャクナゲ、5月下旬から7月中旬頃までは5千本のアジサイを楽しめます。園内には樹齢400年以上のもみの木や夫婦杉などもあり、森林浴を楽しみながら大自然に触れることができます。

広島市安佐北区安佐町飯室右平6006 ☎082-835-3350
営業時間 / 10:00～17:00
開園期間 / 3月中旬～7月中旬頃

写真提供：右平「花園の里」



広島市安佐動物公園

生き生きと生活する動物たちの姿を通して人と自然のかかわりを体験できる公園です。園内には170種類の動物が飼育され世界中の野生動物を観賞することができます。レッサーパンダやゴリラが大人気。動物とのふれあい・エサやりなどのイベントや起伏に富んだ地形を利用して動物を観賞しながら散策するイベントなども行われています。

広島市安佐北区安佐町大字動物園 ☎082-838-1111
営業時間 / 9:00～16:30（入園は16:00まで）
休 園 日 / 木曜日（祝日は開園）、12/29～12/31

写真提供：広島市安佐動物公園

広島市青少年野外活動センター・こども村

自然に恵まれた牛頭山の麓にある同施設は、四季折々の自然の移ろいを肌で感じることができ、自然の中でのさまざまな活動など家庭や学校では得難い体験の場を提供しています。青少年だけでなく、家族や一般団体の利用も可能です。

広島市安佐北区安佐町小河内5135 ☎082-835-1444

安佐町の魅力再発見

《 出身の画家 》

大正から昭和にかけて活躍した安佐町出身の画家です。
町内にも展示してありますので、ぜひご覧ください。

「花」安佐公民館所蔵

中谷 ミユキ

飯室地区出身　洋画家（1900 ～ 1977）
明治33年２月10日、安佐町飯室に生まれる。昭和５年帝展に初入選。翌年上京して岡田三郎助に師事し光風会会員となる。昭和21年女流画家協会創立委員となる。昭和41年女流展にて、国務大臣安井総務長官賞を受賞。十一会会員、女流画家協会委員。

「滝」安佐公民館所蔵

丸木 位里

飯室地区出身　日本画家（1901 ～ 1995）
明治34年６月20日、安佐町飯室に生まれる。大正12年上京、田中頼璋に師事。昭和14年美術文化協会の創立後、会員として第一回展より出品。昭和22年前衛美術会を結成。昭和27年、俊夫人との合作「原爆の図」で国際文化平和賞を受賞。受賞後、「原爆の図」を海外で巡回展示。

展示施設 / 原爆の図丸木美術館
埼玉県東松山市下唐子1401 ☎0493-22-3266
開館時間 / 9:00～17:00（12月～２月は9:30～16:30）
休 館 日 / 月曜日（祝日の場合は翌日の平日）

「山」安佐公民館所蔵

佐々木 邦彦

飯室地区出身　日本画家（1909 ～ 1972）
明治42年３月１日、安佐町飯室に生まれる。川端龍子に師事し昭和13年青龍社展に初入選。以後毎年出品し20回記念展奨励賞・春展賞受賞。昭和42年東方美術協会創立。関西総合美術展審査員。京都日本画家協会理事など歴任。

展示施設 / 広島市筒瀬福祉センター
広島市安佐北区安佐町筒瀬125-1 ☎082-838-3800
開館時間 / 9:00～22:00
休 館 日 / 火曜日（祝日の場合は翌日の平日）

安佐町の魅力再発見

《 お祭り 》

各地区の神社などではお祭りが開催されています。
豊作を祝う秋祭りや夏祭りなど、さまざまなお祭りがあります。

吹き囃子行事 養山八幡神社秋季大祭

（小河内地区）

小河内地区の養山八幡神社では、秋季大祭で江戸末期より200年以上続いている神輿行列などの吹き囃子行事が行われます。文化8(1811)年、神社に神輿を迎え入れる際に行われた行事と言われ、市の重要無形文化財に指定されています。

開催場所 / 広島市安佐北区安佐町大字小河内 4665　養山八幡神社

鈴張（すずはり）

名峰が道しるべ 四方を山に囲まれた交易中継地

有名な職人が由来

鈴張は四方を山に囲まれ、東谷（ひがしだに）、西谷（にしだに）、郷（ごう）の大きく3地区に分けられます。鈴張小学校の校歌に「♪堂床山は緑濃く～」と歌われている標高859・6mの堂床山（どうとこやま）と、飯室（いいむろ）から見え始めて鈴張に帰る道しるべとなる片廻山（かたもうしやま）はそれぞれ東谷川、西谷川の源となっています。鈴張は2つの川に沿って東谷と西谷に分けられ、2つの川が合流したところを郷と呼び、川は鈴張川となって太田川へ流れています。

交通は、東谷は明神峠（国道261号）を越え千代田路へ、西谷は豊平路（県道40号）へと続いています。

鈴張川沿いの道に沿った旧町並屋敷は地形的立地から、江戸時代初期より主に芸北との交易中継地の町屋として成り立ってきました。道の片側に商店街が並び、反対側の川岸の桜が咲く頃には温泉街のような風情を醸し出しています。

「鈴張」の地名は、昔、鈴を上手に張る（空洞の器を作ることを「張る」という）鍛冶屋がいたことからと言われています。平安時代には、「錫張之里」であったと記された資料もあります。

また、江戸時代には鈴張村と関屋村に分離されていたことがありました。旧関屋村が鈴張村に復帰したのは、明治12（1880）年のことでした。

浅野家の休憩所も

左上の写真は鈴張の市から見た風景。画面中央に鈴張小学校と旧村社の宮崎神社、右側に鈴張保育園が見えます。また鈴張にはお寺が三か寺あり、右から、原爆慰霊碑のある長覚寺、広島藩主浅野家の休憩所となった稱名寺、江戸時代の建築様式を今に残す妙法寺が見えます。

山は右手に、安佐北区で2番目に高い堂床山、左手に片廻山（682m）がそびえます。手前に見えるのは町屋の旧国道です。

また、陰陽分水嶺のある明神峠の笹原明神をはじめ、現在確認されているだけでも御堂や祠が35社以上もあり、それらを探して歩くのも面白いでしょう。

桜の名所3選

1 旧国道の桜

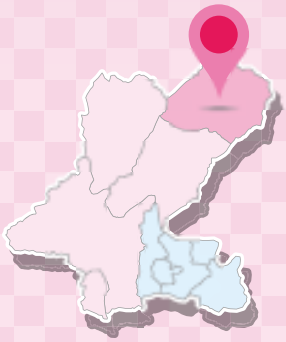
旧鈴張郵便局から続く桜並木。左手に商店街、右手に桜が続く町屋であった。大正から昭和35年頃まで、牛の市が開かれていた。

2 鈴張街道豊平分かれの桜

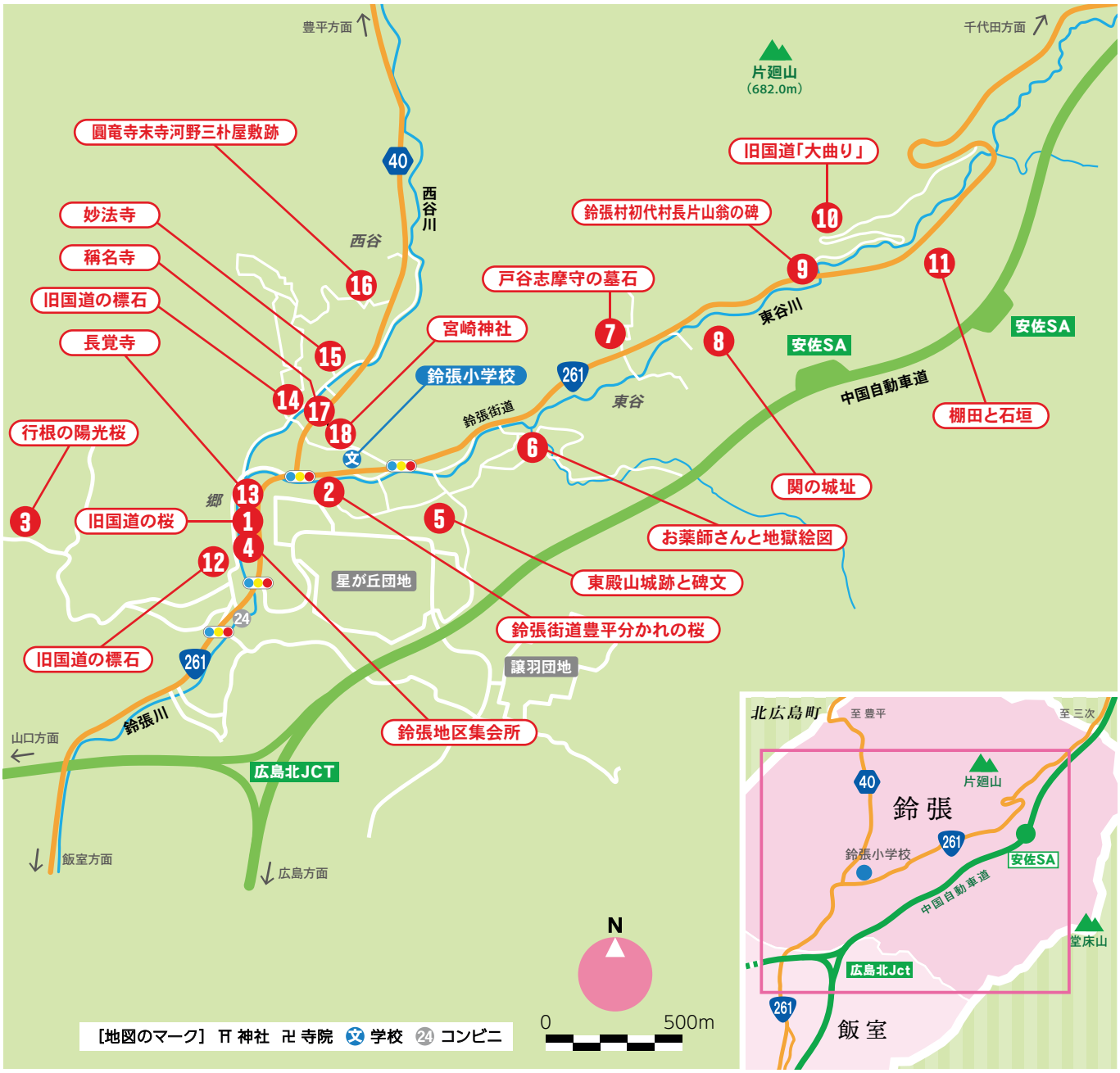
鈴張街道を千代田方面に向かって東谷へと行くと、豊平分かれ交差点から鈴張小学校の校庭へと桜が続く。

3 行根の陽光桜

陽光桜が、行根の青少年野外活動センターへ抜ける途中で見事な花を咲かせている。



鈴張の市（昔、六日の市がたっていた）と呼ばれる地域から見た風景



お祭りで販売される
薬師飴と地獄絵図が有名

6 お薬師さんと地獄絵図

上郷にあって「お薬師さん」と呼ばれ、4月8日の薬師祭りで売られる「薬師飴」と地獄絵図の「往生要集絵図」（下）は有名。もとは妙薬院といい戸崎にあったが、水害で現在の場所にお堂が建てられ、妙林寺と名付けられた。

お薬師さんの地獄絵図「往生要集絵図」

戦国時代の山城跡
城主は武田家家人

5 東殿山城祉の碑文

東殿山城主民部丞は若狭・丹波の守護武田元信（安芸武田氏と一族）家人（家臣）としてこの地域を領有する（元禄17年の鈴張地誌）。末孫家は今に継ぐ（関東在住）。
城址は鈴張星が丘団地第3公園脇。

大内家の家人の居城
城主一族は今も地元に存続

8 関の城址

山口の守護大名大内義隆の家人、横山右馬之助眞高の居城（手前左）。義隆の下文（くだしぶみ「命令書」）今に残る。鈴張市界隈の各横山家は城主の実弟を祖とする。

地区のコミュニケーションの中心
自治会や社協の事務所も

4 鈴張地区集会所

鈴張地区のコミュニュケーションの中心、散策の基点となる場所。
鈴張学区連合自治会や鈴張地区社会福祉協議会の事務所であり、鈴張の情報の拠点でもある。

祖は可部の高松城主
母方を継ぎ、隠棲帰農

7 戸谷志摩守の墓石

戸谷志摩守直忠は可部高松城主熊谷豊前守元直（クリスチャン大名）を祖父とする熊谷家の庶子であったが母方の城主家（豊平戸谷村）を継ぎ鈴張村に隠棲帰農した。

石垣100選にも選出
鈴張のマチュピチュ

11 棚田と石垣

堂床山山麓に広がる棚田は絶景！石垣100選にも選ばれ、まさに鈴張のマチュピチュである。鈴張農耕有史以来開墾し築石され続け、江戸後期ごろ現在の姿になったとされる。旧国道大曲りから、全景が見える

大きく蛇行した旧国道
日露戦争時の軍用道路

10 旧国道「大曲り」

この辺り4区の住民は大蛇行した旧国道を「大曲り」と呼ぶ。明治10（1877）年代広島～浜田への軍事軍用道路として突貫工事され当時のロシア対策でもあった。乃木希典大将視察の際、本地に宿泊（三戸家前石碑）。

鈴張村の初代村長
高宮や佐伯の郡役所で手腕発揮

9 鈴張村初代村長片山翁の碑

明治22（1889）年、初代村長。昭和7（1932）年、第17代に再就任。役人時代は高宮・佐伯の両郡役所に奉職し能吏として行政手腕を発揮、湯来町史にその業績が載る。片山家は関の城主を祖とする。

鈴張三ケ寺内で最古 往時の建築様式は文化財的評価

⑮ 妙法寺（みょうほうじ）

鈴張三ケ寺の中でも最も築年数が古く、江戸中期享保11（1726）年の築年とされる。往時の建築様式を伝える文化財的評価を受けている。

原爆被災者を慈悲の心でお見送り 追悼の碑が境内に

⑬ 長覚寺（ちょうかくじ）

原爆で被災された人が多く収容され、当時の住持が博愛の念に立った慈悲のお見送りを行った。その碑が境内にある。

往年の街道を指し示す 地域に残る道標

⑫⑭ 旧国道の標石（きゅうこくどうのひょうせき）

旧国道の旧鈴張郵便局前（⑫左の写真）に、町屋の栄えた頃の往還道を示す標石が残っている。また、天道路の入口（⑭右の写真）にも標石が残っている。天道路を通って今吉田へ抜けていた。

和歌・俳句絵馬が伝わる

⑱ 宮崎神社（みやざきじんじゃ）

永正元（1504）年、宮岡山に社殿が建立。享和元（1801）年、現在の社殿が再建され、明治5（1872）年に村社となる。毎年11月3日に祭礼が行われ、鈴張神楽団による神楽（右上）の奉納と、式典の中で巫女（右下）による「浦安の舞」が奉納される。社殿には、鈴張先人達の素養がにじむ和歌・俳句の絵馬が明治に奉納され今に残る。

本堂は建てず持仏のみ

⑯ 圓竜寺末寺 河野三朴屋敷跡（えんりゅうじまつじこうのさんぼくやしきあと）

かつて鈴張西谷にあった河野三朴家は寺町圓竜寺の末寺とし、本堂は建てず「持仏」のみ。とくに阿坂、豊平方面の檀家への御勤めをし、代々三朴を名乗り宮崎神社創建一族として神仏習合の家筋。

江戸時代殿様が休憩 古文書に記される

⑰ 稱名寺（しょうみょうじ）

江戸時代の古文書にかつて殿様が当地域に来られた際に当寺がご休憩所となった記録が残る。（国郡志書出帳）

ちょっと よりみち

すずはりまつり・星が丘夏まつり

すずはりまつりは毎年11月に行われる。すずはり自治会の主催で、農産物品評会や、地区住民の作品展示，地区の芸能発表や有志による発表などが行われる。
また、星が丘夏まつりは毎年8月に星が丘団地の第3公園で開催される。

堂床山とたたら遺跡

堂床山中腹に「ぼた山」状態の鉄滓（かなくそ）があり、平成29年に広島市初となる中世たたら遺跡と確認された。山頂に廃寺跡があり、鉱物探索を兼ねた修験者道場と思える。
同山の麓は近世初めから明治の初めまで関屋村と呼ばれていた。

鈴張大花田植え

当地の花田植えは近世に北広島町から伝わり、戦後復活し変遷を経て現在に至り、「鈴張東上花田植保存会」として次世代に確実に引き継がれている。（安佐公民館冊子参照）
毎年5月に東谷地域で開催されていたが、平成30年をもって一時休止となった。

飯室 いむろ

地名は氷室に由来とも 陸路と舟運で栄えた町

飯室地区全景。中央に複合ショッピングセンターＣＯＭＳ安佐パーク。
右奥に清和中学校が見える

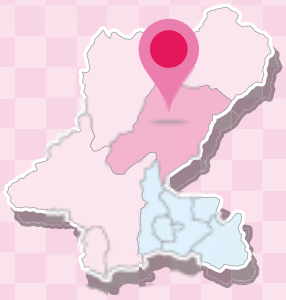
飯室の地は太田川とその支流、鈴張川流域の山間部に位置します。地名の由来は文政２（１８１９）年の「国郡志御用につき下調べ書出帳」によると、『往古諸国に設置された氷室にちなむ』とありますが、定かではありません。また、この地を同書に見ると、古市地区と宇津地区が本郷（古くから開けた村の中心地）と記されています。一つの村に二つの本郷が在るのは珍しく、往古から陸路と舟運で栄えた証しとも言えます。

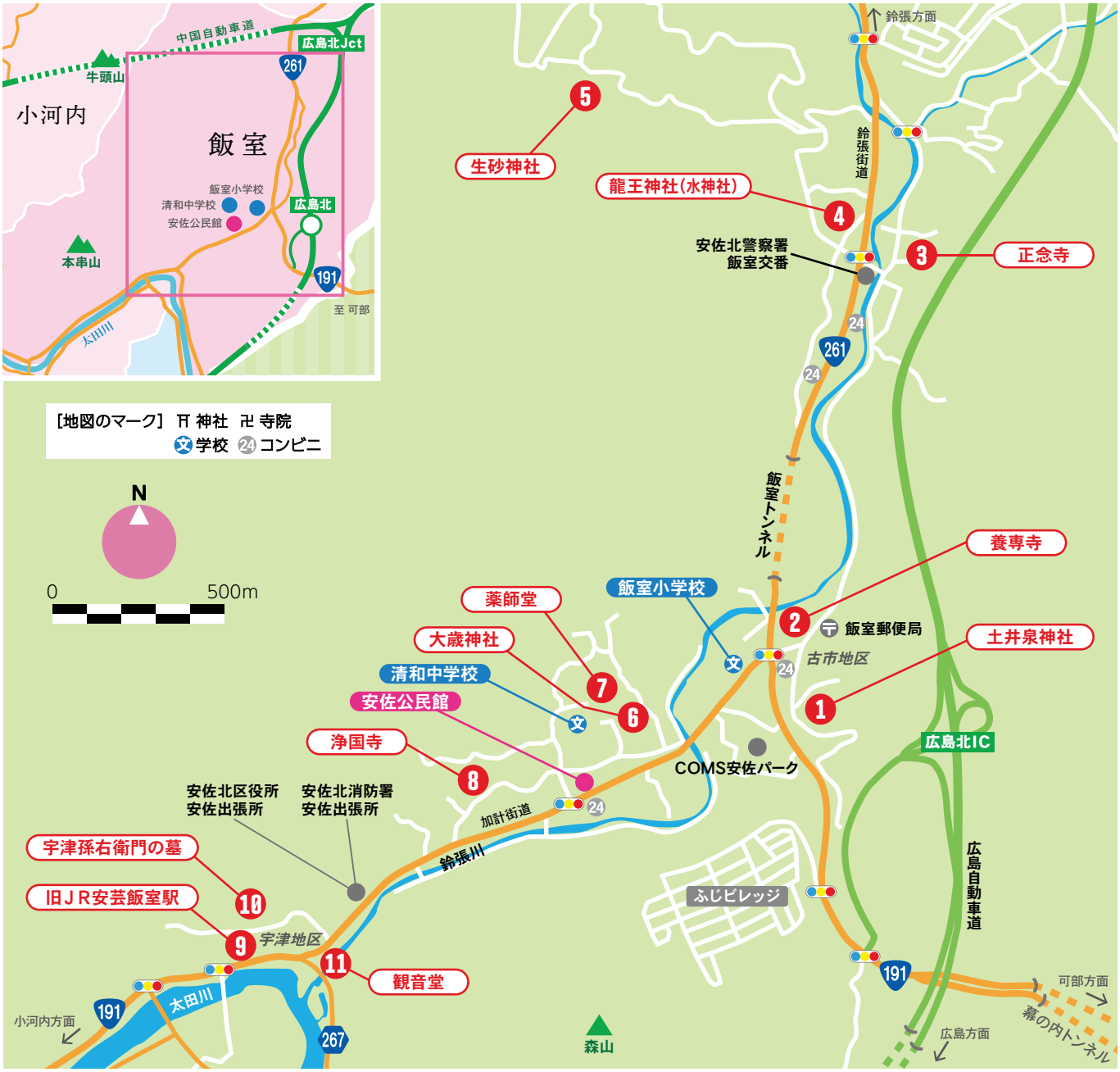
陸路で古市地区は庄原往還（江戸時代の街道）が通り、年貢米などはこの地から宇津地区へ、各物資は宇津地区からこの地を経由し豊平・千代田方面へ運ばれていました。明治18（１８８５）年６月、幕の内峠に県道が完成し、飯室や芸北の五か村は陸の孤島から脱することができました。昭和29（１９５４）年には幕の内トンネルが開通し、県下初の有料道路（昭和44年に無料となった）として山県郡の東西合流点、さらに山陽と山陰を結ぶ強力な役割を果たすようになりました。

一方、舟運の起源は中世（１３００～１５００年）頃とされています。鎌倉～戦国時代までは荘園領主や武将の経営が優先して行われていました。江戸時代になると、この舟運で村では可部を経由し諸物資の供給が行われ、宇津地区は近世から近代にかけ、旧安佐郡北部、山県東部の米・麦・薪・炭等の積み出し港として栄えました。

鉄路の開通と廃止

また、太田川に沿って旧国鉄可部線の可部～飯室間が昭和11（１９３６）年に開通し、同21（１９４６）年には布地区まで延伸しました。山陽と山陰を結ぶ鉄道として明治時代から計画があり、さらに延伸工事は進められ同29（１９５４）年には加計、同44（１９６９）年には三段峡まで開通。しかし、自家用車が普及し赤字を理由に平成15（２００３）年に可部～三段峡間は廃止されました。





鈴張川河口の宇津地区から太田川を臨む。奥に広島自動車道が見える

いむろ 飯室

飯室を鎮守する高位の社
土居城主三須氏の居城跡

1 土井泉神社（どいいずみじんじゃ）

この境内は1300年代後半頃から、三須氏の居城であった。時は不詳、三須氏は帰農し、この地はしばらく空地となったはず。天承元（1131）年、甲斐国より宇津に勧請され、宇津八幡として建立された。時不詳、宇津の地より、この泉山に遷宮された。

当地最古の浄土真宗寺院
木造如来坐像は市の重要文化財

2 養専寺（ようせんじ）

古くは真言宗で、明応8（1499）年に順知が水主町へ開基する。のち、浄土真宗に転じ飯室上手の寺山に本堂を建立。文政11（1828）年、二層の山門を建て現在地に移る。

木造如来坐像（もくぞうにょらいざぞう）

本堂にどっしりとした重量感のある木造如来座像が安置されている。作りは、一木造（頭部と体部が一本の木から彫り出す技法）の像で、彫法や衣文の刀法から平安時代のものと思われます。市指定重要有形文化財（平成5年）

古くからの産宮、産砂社
神社形態の初期のものか

5 生砂神社（うぐすなじんじゃ）

天正17（1589）年、毛利輝元が広島城を建築する年から遡ること数百年以前に勧請したものらしいとの言い伝えがある。

鎌倉幕府成立時期に祭神来る
往古から改称を繰り返す

4 龍王神社（水神社）（りゅうおうじんじゃ（すいじんじゃ））

建久3（1192）年、飯室の笹ヶ丸地区（不明）に奉斎。後、現在の地に遷宮。往古は社号を亀甲山と称えその後龍王山と改称、更に明治4（1872）年、水神社と改称したものである。

古寺を凌いで建てられた
可部の綾ケ谷から移築

3 正念寺（しょうねんじ）

江戸の初期、僧浄照が真言宗正念院として綾ケ谷に建立。享保15（1730）年、正山が浄土真宗に改宗し正念寺と改め猪の子地区に移築。時は不明「狭い地域に二ヶ寺はいらぬ」ということで、正念寺が残った。

かつては森山の山頂に在った
境内の石垣は築城様式

8 浄国寺（じょうこくじ）

もとは真言宗で永正9（1512）年、正学により開基。天文2（1533）年、釈得了により浄土真宗に改宗。享保5（1720）年、に草葺きで現在と同等の物が再建。大正14（1925）年、現在の伽藍を再建。

災害で被災した人を祀る
近くには戦死者供養の塚も

7 薬師堂（やくしどう）

1751～1790年（宝暦～天明）の頃、上畠に山津波がおこり、浄巌寺や多数の民家が流されてしまった。後に浄巌寺付近から薬師如来像が出土。現在地にお堂を建て祀ったのがはじまり。

神主河野家が勧請か
いつ当地に祀られたか不明

6 大歳神社（おおとしじんじゃ）

神主河野家先祖が上畠地区へ住居を定めたとき、天保10（1839）年か天保11（1840）年ころ勧請したものか、もともと上畠地区に祀られていたものなのか定かでない。

旧ＪＲ安芸飯室駅ホーム跡に咲く桜

国鉄可部線は昭和11年開通
惜しまれつつ平成15年廃線

9 旧 JR 安芸飯室駅（きゅうじぇいあーるあきいむろえき）

旧国鉄可部線は昭和11（1936）年10月に開通。昭和20年代は木材を運んだ貨物列車が中継駅としてこの駅も利用された。昭和46（1971）年3月まで蒸気機関車が運行されていた。平成15（2003）年に廃線。

舟運の安全を祈願
地元では「観音さん」

11 観音堂（かんのんどう）

この地太田川の船頭泣かせの難所「獅子走り」の川中から引き揚げられた石が御神体。言い伝えでは、庄屋さんの夢枕に立ったとのこと。この宇津地区は昔から水害が多くあり、春祭りでは水難祈願も行っている。

豪族なのか領主なのか？
地名の由来となった

10 宇津孫右衛門の墓（うずまごうえもんのはか）

この墓は戦国末期から安土桃山時代の物だと鑑定された。伝えによれば、宇津氏は数百年宇津地区に住んで相当羽振りをきかしていたらしい。「郡中国郡志」によると、宇津氏にちなみ地名を「宇津」とした。

宇津孫右衛門屋敷跡→

小河内 おがうち

今も残る農村の原風景 地域の郷土愛と絆がつながる

（上）
三谷地区から見た牛頭山。
山頂は東西二つの峰からなる。
左奥に見える東峰を「飯室牛頭」、
右手前の西峰を「小河内牛頭」と呼ぶ

（右）
旧小河内小学校から見た滝山

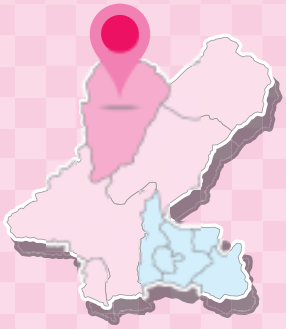
地名の由来は、この地に小河内氏がいたことから「小河内」と名付けられたという説（その昔、豪族といわれる者のほとんどが居住地の地名と密接な関り合いを持っていたから）の他、和名抄（平安時代の書物）には安芸郡河内郷をこの地に比定する説があり、地形的にみて小さな河内郷とし、「小河内」となったという説もあります。

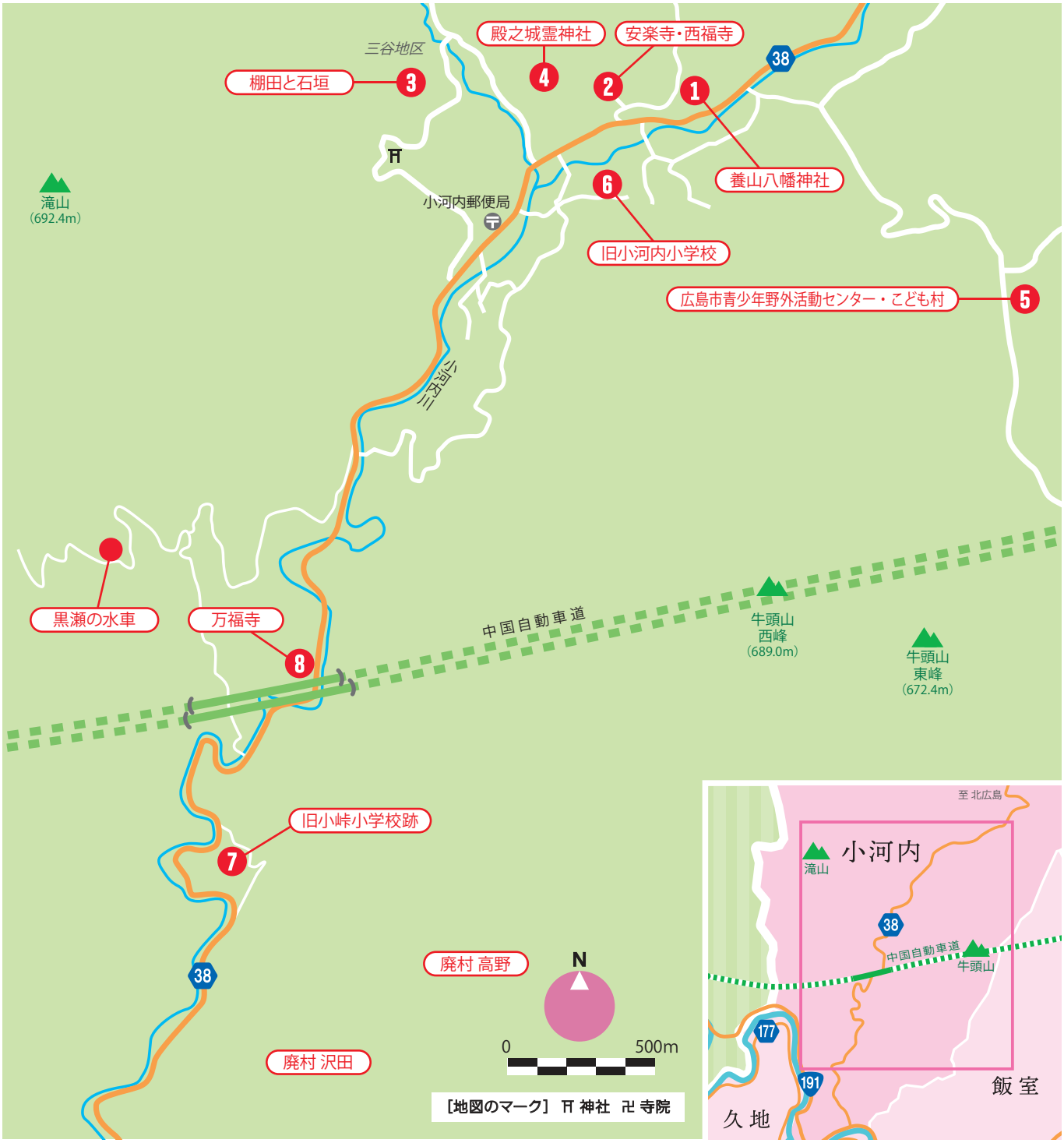
広島市の北西部に位置し、牛頭山（689・0m）と滝山（692・4m）に囲まれ、太田川と小河内川が流れる農村の原風景が今も残っています。

牛頭山の南側に今は廃村となった高野地区と沢田地区。ここから小河内は開けて行ったと地区の古老の言い伝えがあります。

小河内弥太郎

戦国時代に現代の我々が当時を偲ぶことができる史跡等が作られました。安楽寺、養山八幡神社。そして、小河内のシンボルである小河内弥太





郎と関わりのあった牛頭城、殿之城、西福寺。小河内弥太郎は小河内氏13代目の城主（居城は牛頭城）と言われています。しかし、牛頭城には銀山城（安芸武田氏）の兄を思い居城せず、殿之城を築城する。その後、毛利側吉木（現北広島町）の笠間氏の謀計により殿之城に火をかけられ、当時18歳の弥太郎は西福寺で家老の説得により自刃。二人の家臣もそれに続いた。亡骸を葬った場所に今も殿之城霊神社が建っています。

昭和になり、昭和40年代半ばには安佐町でいち早く過疎化が進み廃村（高野地区、沢田地区）が出ました。旧小河内小学校の児童数は最も多い昭和20（1945）年に約350人でしたが、廃校となった平成27（2015）年には15人でした。

こうした背景があってか、地域住民の方々の深い郷土愛と強い絆により地域の貴重な伝統芸能（吹き囃子）や文化財、そして生活環境などを大切に保存しています。そして、次世代に受け継がれるようNPO法人O（オー）プロジェクトを立ち上げ、小河内の行事、都市部との交流イベント、郷土料理や炭づくりなどの講習会を行っています。

鎮守の杜は市の天然記念物 200年以上続く伝統行事が有名

1 養山八幡神社（ようざんはちまんじんじゃ）

天文17（1548）年に小河内村高野地区の古八幡神社の御神体を遷座し建てられた。天正年間（1573～1591）に全焼したが、天正17（1589）年に再建。秋季大祭で行われる「吹き囃子行事」は200年以上続く伝統行事。
「吹き囃子行事」平成9（1997）年「広島市重要無形文化財」に指定
「社叢」昭和53（1978）年「広島市指定天然記念物」に指定

吹き囃子行事（右下写真）
文化9（1811）年9月27日、小河内村の氏子中にて広島市塩屋町（現広島市中区大手町）の大工新右衛門という人物から銀1貫250匁で三つの神輿を買い求めた。この神輿を氏子中は小浜地区まで出迎えたことが始まり。

当時の苦心がうかがえる 今も残る農村の原風景

3 棚田と石垣（たなだといしがき）

山間部での農耕地確保のために、石垣を積んで開墾された棚田。その高い石垣は、草を取りやすくするように「足場」を石で築いています。石垣職人の技と農村文化が残る風景です。

宗派の異なる二寺が隣接 小河内弥太郎終焉の地

2 安楽寺・西福寺（あんらくじ・さいふくじ）

安楽寺は上三根地区に天文元（1532）年、僧順教によって開基した真言宗の寺院。その後（時代不詳）現在地に移転し、寛永7（1630）年に浄土真宗に改宗された。
西福寺（禅宗）は安楽寺向かって左側、明治時代の半ばに小堂として建てられた。本尊は正観音座像、脇立に持国天と多聞天。小河内弥太郎が悲運の最期を遂げた寺。

西福寺

安楽寺

登山コース紹介

小河内のシンボル、小河内弥太郎にちなむ史跡を見て、地区の原風景の一つである棚田を見て歩きます。

牛頭山

標高689.0m。東峰と西峰があり、西峰に牛頭城跡がある。眺望は、この地と関係のある武田山（安佐南区祇園）を望むことができる。
晴天時には、はるか宮島まで見えることがある。

小河内 おがうち

キャンプ、農場、牧場、星空観察等自然を活かした体験活動が充実

5 広島市青少年野外活動センター・こども村（ひろしましせいしょうねんやがいかつどうせんたー・こどもむら）

標高４００mの林間に７７haの敷地が広がり、多目的広場や研修・宿泊棟、キャンプ場、体育館、工作館、実習農場、牧場などの施設があります。オリエンテーリング、星空観察、農業体験など自然を活かした活動が可能です。

小河内弥太郎を供養する墓碑

語り継がれる地元史の雄 小河内弥太郎鎮魂の社

4 殿之城霊神社（とのんじょうれいじんじゃ）

小河内の歴史の中心人物である小河内弥太郎を祀る鎮魂の神社。境内には斬首した首を祀った首塚と供養のために家臣が植えたといわれる大きな松の跡と墓がある。ここより約300m登った所に、弥太郎の居城である藤之城跡もある。

移転を繰り返し昭和になり現地へ

8 万福寺（まんぷくじ）

その昔、備後の国の池原壽右衛門が矢ヶ谷地区に出家して前寺を龍華院と称した。門徒の協力で明治33（1900）年、広島市猫屋町明教寺下黄檗山万福寺の寺号を買い受け辻堂中地区に移転。昭和7（1932）年改修し現在地に移転した。

かつての学び舎 棚田の中の小学校

6 旧小河内小学校（きゅうおごうちしょうがっこう）
7 旧小峠小学校跡（きゅうことうげしょうがっこうあと）

旧小河内小学校は明治7（1874）年、堂原河内地区に、旧小峠小学校は明治8（1875）年、小峠地区に開かれた。明治20年代に小学校の体裁を整え、明治27（1894）年に旧小河内小が、旧小峠小は同28（1895）年に校舎を建設。
昭和46（1971）年に旧小峠小学校は旧小河内小学校に統合。平成27（2015）年に旧小河内小学校も閉校となった。

旧小河内小学校の校舎

旧小峠小学校跡の石碑

昭和46年当時の沢田

廃村 沢田

太田川から牛頭山系に連なる標高300mの山の中腹に、南東から南西に向かってなだらかに広がる丘陵にあった。丘陵の前面に小さな山が２つ並ぶ静かな隠れ里と言った感じである。平家の落人伝説があり、それを裏付けるように平家の守護神たる祠が残る。

滝山

標高692.4m。小河内で最も高い山。明見谷や楓原方面から眺める姿は「小河内富士」と呼ばれるほど富士山に似て、とても美しい。登山途中の標高５００m付近の鉄塔辺りから安芸大田町、北広島町の山並みが望める。

黒瀬の水車

平成 23（2011）年頃に作られたものである。敷地内にある蔵には多種の仏像が展示され、施主がいれば見学することができる。

久地（くち）

細長い地形が地名の由来 残し続けたい故郷の景色

145年の歴史がある久地小学校（令和元年６月撮影）

久地の地名の由来については、諸説あるようです。その内の一つが、細長い地形的なものから「久」の地となったのではないか。

もう一つは江戸時代の年貢を納めるのに、久地のほとんどが百石以上の武士に給与として支給される「給地」であったことから久地と呼ばれ始めたと言われる説があります。

いずれも確証があるものではありませんが、久地の地形は細長い地形であることには間違いありません。

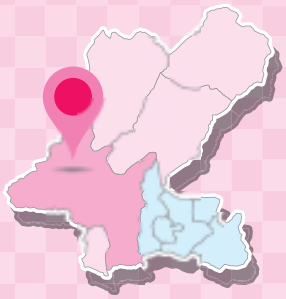
久地地区には、昭和40年代まで旧魚切小学校、旧宇賀小学校、旧高山（高原）小学校と久地小学校の四校がありました。その後、統合により久地小学校のみとなり、昭和56年に久地南小学校が分離し、新設されました。そして、１４５年の歴史のある久地小学校が令和２年４月で飯室小学校と統合されます。

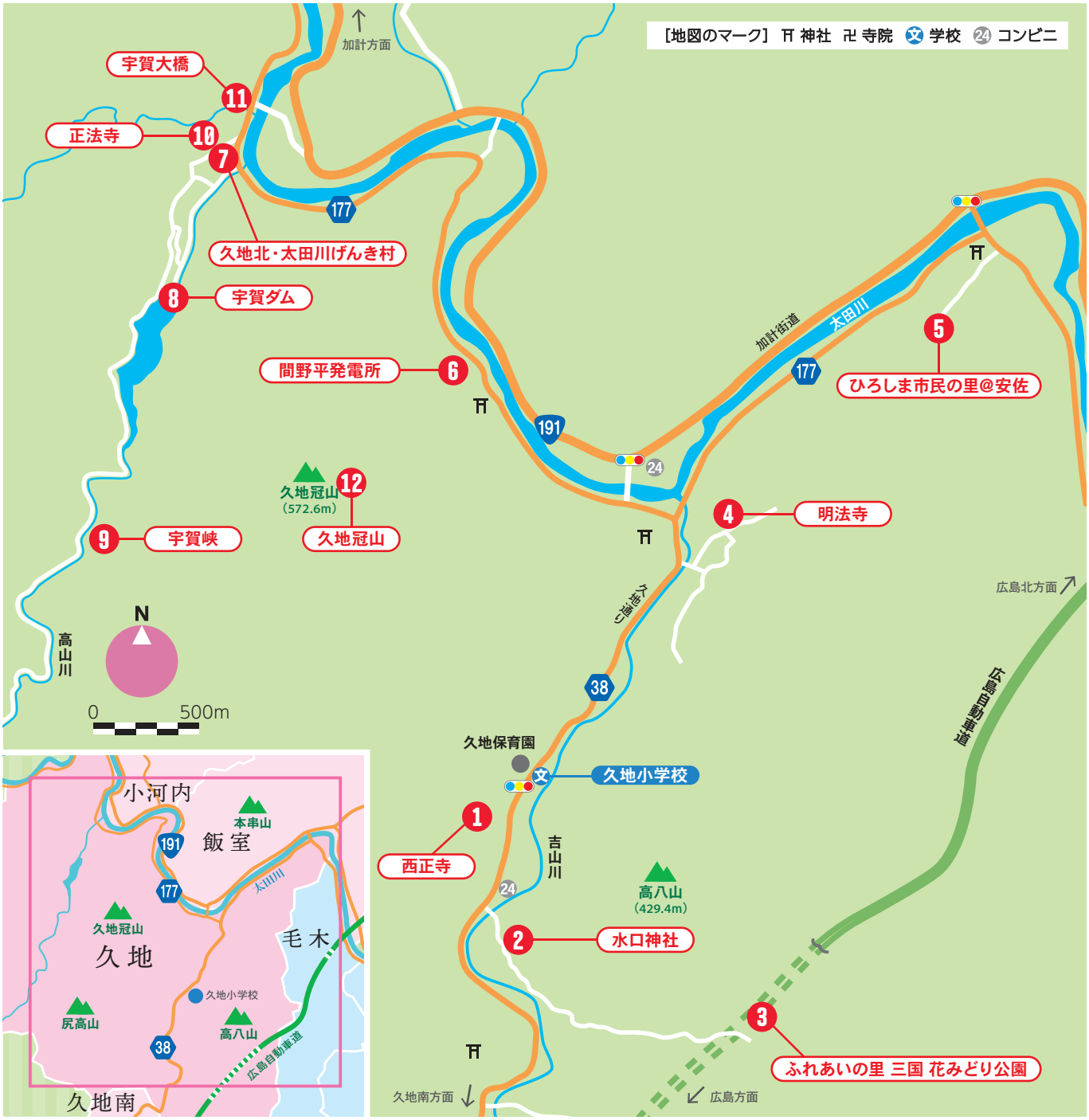
久地は時代の変化によって、だんだんと住む人が減り、集落が無くなってしまうところも出てきています。残念なことですが、久地のこの素晴らしい山、川、空の景色は変わるものではありません。住んでいる者としては、この景色を大切にし、できるだけ多くの方に見てもらえるように頑張って維持していきたいものです。

久地（くち）小学校

明治7年	久地村に啓蒙社として創立
明治41年	水口尋常小学校と魚切尋常小学校を合併、久地尋常小学校を創立
昭和45年	宇賀小学校を統合
昭和46年	魚切分校を統合
昭和56年	久地南小学校新設
令和2年4月	飯室小学校と統合

平成30年11月撮影





久地の小学校の沿革

旧宇賀小学校

明治13年　設立
昭和45年　久地小学校と統合

旧高山(高原)小学校

明治21年　設立
昭和40年　旧宇賀小学校分校となる
昭和44年　旧宇賀小学校と統合

旧魚切小学校

明治9年　設立
昭和46年　久地小学校と統合

※各小学校の沿革は「百年誌 くち」から引用

300年前に移転再建
夏と秋に祭り

❷ 水口神社（みずぐちじんじゃ）

元々は、川井北原古八幡にあったが、社殿が火災にあい、３００年に現在地に再建されたという記録が残る。毎年、神社の夏越祭りが７月最終週日曜日に、秋祭りは１０月第２週の土日に開かれ、神楽が上演されている。

650年の歴史
庭の松の木から航空燃料へ

❶ 西正寺（さいしょうじ）

久地に金山があった頃の６５０年前に建立された。建物は明治２２（１８８９）年頃に改修され、現在に至る。
第二次世界大戦中、日本軍が、松の木から油分を採って航空燃料を抽出していた。この西正寺の庭の松からも取られた名残りが今もある。

西正寺の庭の松
航空燃料用に油分を採った傷跡が残る

名物の樹齢約300年の松
枯れても門徒が保管

❹ 明法寺（みょうほうじ）

今から４００年前に本願寺顕如の弟子が出家し、久地北原地区に建立したといわれている。
寺の庭には樹齢約３００年の松が経蔵の下を這うように生えていた。残念ながら枯れたが、残木は門徒により大切に保管されている。

明法寺の庭の松
在りし日の姿

西日本有数のシャクナゲが咲く
花木や鉢花、園芸用品の販売も

❸ ふれあいの里 三国 花みどり公園（ふれあいのさと みくに はなみどりこうえん）

安佐町は昭和３０年代後半に「緑と詩の町」として自然休養村づくりをしてきた。公園内には、「シャクナゲの国」「わんぱくの国」と名付けられた場所やグラウンドゴルフ場があり、「わんぱくの国」には「見晴らしの丘」やドッグランがある。

完成は大正時代
宇賀ダムからの水で発電

❻ 間野平発電所（まのひらはつでんしょ）

発電は、宇賀ダム経由と津伏堰堤～宇賀ダム前の水路橋経由の２系統で発電所まで送られてきた水の落水で行っている。
落水した水は、さらに地下を通って太田川発電所まで送られる。

大正 14（1925）年完成	9,500 kW
昭和 34（1959）年増設	15,000 kW
計	24,500 kW 出力

太田川から発電所への水路橋

農村文化の体験施設
野菜栽培、里山整備、自然体験等

❺ ひろしま市民の里＠安佐（ひろしましみんのさと　あさ）

市民が、いつでも自由に参加して、農業、林業など農村文化を体験することができる。
荒れ地の開墾、里山の整備、米や野菜の栽培、農産物の加工、農村文化の体験、里山の自然体験などができる。

水力発電用に造られたダム
水内川からも流れ込む

完成　昭和 34（1959）年
堤高　31.5m
堤長　108m

8 宇賀ダム（うがだむ）

宇賀峡入口にある。取水は上流の高山川の他、太田川上流の吉ヶ瀬発電所からと水内川から地下トンネルでダムに流れ込んでいる。ダムからは再び、トンネルで間野平発電所へ流れている。

季節ごとの自然を生かした体験活動ができる
ウォーキングの拠点としての利用も

7 久地北・太田川げんき村（くちきた・おおたがわげんきむら）

気軽に訪れることのできる地域に開かれた施設。「山野草を食べる会」「ホタルの夕べ」「しめ縄づくり」「梅の剪定」「手打ちそばづくり」等を行っている。ウォーキングのスタート地点としても利用可能。

地区の住民が管理
境内からは宇賀ダムを臨める

10 正法寺（しょうほうじ）

住職が亡くなり、現在は地区の住民によって管理されている。境内から宇賀ダムや田んぼを眺めることができる。裏手の石段（右下の写真）を上ったところに観音堂（右上の写真）がある。

高山川沿いに自然豊かな峡谷
渓流にはヤマメや山野草も

9 宇賀峡（うがきょう）

宇賀ダムから高山川沿いを約６ｋｍ進むと高山地区へ着く。高山川には太田川漁協が毎年、ヤマメを放流し、４月１日の解禁日には多くの釣り人が腕をふるっている。

旧高山小学校跡

急坂が続く中級者コース
山頂直下の岩場は要注意

12 久地冠山（くちかんむりやま）

標高572.6m。登山道は分かりやすいが、急坂なところが多くある。間野平発電所そばから登り、下山は途中から宇賀ダム側へ下りる道もある。いろいろな景色の変化を楽しむには良いコース。

太田川に架かる赤い吊り橋
木製の床板からの眺めは絶景

（橋の長さ）140.5m
（高さ制限）3.5m　（重量制限）１ｔ

11 宇賀大橋（うがおおはし）

宇賀大橋は太田川にかかる吊り橋。すぐそばには、廃線となった旧ＪＲ可部線の長い鉄道橋（右の写真手前）が残っている。また、太田川の真ん中には黒い浮石、通称「小河内ザウルス」（右下の写真）がある。

久地南 くちみなみ

古くからの地域と新興団地が融合 広島自動車道が地域内を縦走

程落神社付近から岳山を臨む

久地南地区は、昭和56年に久地南小学校が開校したことで、久地南学区が誕生しました。古くからある境原地域、幸ノ神地域、魚切地域、小野原上地域と、新しい団地の瀬戸内ニューハイツ、南が丘、くすの木台の各団地からなっています。

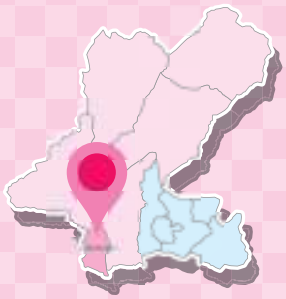
東に荒谷山、西に岳山（だけやま）、北西に尻高山が見えます。上空から見ると、山を切り開いて瀬戸内ニューハイツ、南が丘、くすの木台の各団地が造られた様子が分かります。

境原地域、幸ノ神地域と瀬戸内ニューハイツの方から嶽川が流れ、魚切地域で吉山川に合流し、太田川に流れ込んでいます。

県道38号線（久地通り）が、南の安佐南区伴方面から北の布地区方面に通っています。

広島自動車道が通っており、高速バスの久地停留所、久地パーキングエリアがあります。

久地南地区には現在、１９２５世帯があり、約４２００人が暮らしています。



地域を見守り千年 伝説の巨大杉

久地の千年杉

広島自動車にある高速バスの久地停留所近くに自動車道を横切る城下橋という高架橋があります。この橋より岳山頂上に向かう登山道の途中に貯水池があり、その近くの国有林内に千年杉があります。

急傾斜地に立ち、地上約２ｍから４ｍの位置で台杉型に株立となる。主な幹は７本あり、枝を多数分かち東西と南北にそれぞれ約18ｍの枝張りのある、円錐形状の樹冠をなしています。

樹高は40・３ｍ、胸高幹周12・２ｍ（主幹の幹周４・７ｍ）、根本周囲８・15ｍと測定されています。近くに寄ってみるとさすがに大きく、圧倒されるような神秘さが漂っています。樹齢は６００年から７００年と推定され、現在広島県３位の巨杉であると認定を受けています。

この千年杉は、昔から巨杉ありと口伝えで知られていましたが、平成16年久地南岳山の会の会員によって存在が確認されました。現在では登山道の名物として整備され登山道口から近いということもあり、多くの来訪者に楽しんでもらっています。

地元で道場を開設 体術（柔道）の先生

3 高森先生のお墓（高月塚）

たかもりせんせいのおはか（たかつきづか）

昔この辺りで体術（柔道）の先生が道場を開いていた。名前は高月吉半といわれているが、はっきりしていない。今ある「高森先生」のお墓と考えられている。

樹齢６００年以上 県内３位の巨木

2 千年杉

せんねんすぎ

幹周12.2m、高さ40.3mの大杉。岳山登山口より、３００m上の貯水池の近くにある。樹齢は６００年から７００年と推定され現在広島県３位の巨杉であると認定を受けている。

安芸武田氏の一族が築いた山城 城郭跡が当時を偲ばせる

1 岳城跡

だけじょうあと

岳山（標高 521.5m）の山頂にあり、久地・阿戸・伴の三か村の界にあり、「芸藩通志」によると武田弾正が築いた城跡。城跡には、平らなところが1段あり城郭の跡と思われる。
写真は城跡から安佐南区伴方面の眺望。

久地南 くちみなみ

悪霊の侵入を防ぐ神様
牛の市の繁盛祈願を合祀

6 胡子（幸の神）神社（えびす（さいのかみ）じんじゃ）

悪霊の侵入を防ぐ神・旅の安全を守る神といわれ、村境・坪などに祀られた神社と、牛市の繁盛を祈って祀られた恵比寿神社を一つにして昭和41（1966）年に今の場所に移った。

九十九の谷しかなく
家臣が姫を神として祀った

5 青坂明神社（あおさかみょうじんじゃ）

昔、お姫様が家臣と一緒に通られ、その時お姫様が「ここに谷が百あれば住まいする」と申されたので家臣が数えたところ、九十九の谷しかなく家臣の一人が住み、お姫様を神としてお祀りしたといわれている。

作物の守護神
毎年秋に例祭

4 恵比寿（道下恵比寿）神社（えびす（みちしたえびす）じんじゃ）

【祭神】　事代主神　（境原）
【例祭】　11月15日（現23日）
【いわれ】
作物の守護神として祀り、境原道下神社とした。

散在の社を一か所に合祀
石と金と刀がご神体

9 魚切神社（うおきりじんじゃ）

魚切地区には小さな神社が散在していた。昭和15（1940）年、三つの神社を合祀して今の所に移した。ご神体は石と金と刀。

三地区の農耕を守護する
五穀豊穣、家内安全の神

8 程落神社（ほどおちじんじゃ）

【祭神】　宇気持神・大年神・少名彦神
【いわれ】
古くから、中田、程落、横田の三地区の農耕の守護神として祀られた神社。

灸治療院への案内
遠方から治療へ訪れた

7 石灯籠と灸（医）者（いしどうろうときゅう（い）しゃ）

昔、中田地区（今の小野原上地区あたり）に灸（医）者がいて、遠方から多くの人々が治療に訪れていた頃の道標として建てられたと伝わっている。

合祀されてもなお
当地に残る観音様

12 八つ手観音（やつでかんのん）

弁才天社（魚切神社に合祀される前の神社）があったところにある。昔この辺りの宗派が、真言宗であった名残。

魚の遡上を拒む滝
地区名の由来にも

11 吉山川の大岩（どんどん）（よしやまがわのおおいわ（どんどん））

吉山川にある落差約2mの滝。魚切地区の由来となった。
地元では「どんどん」と呼ばれている。

幾年も往来を見続けた
分かれ道に立つ道標

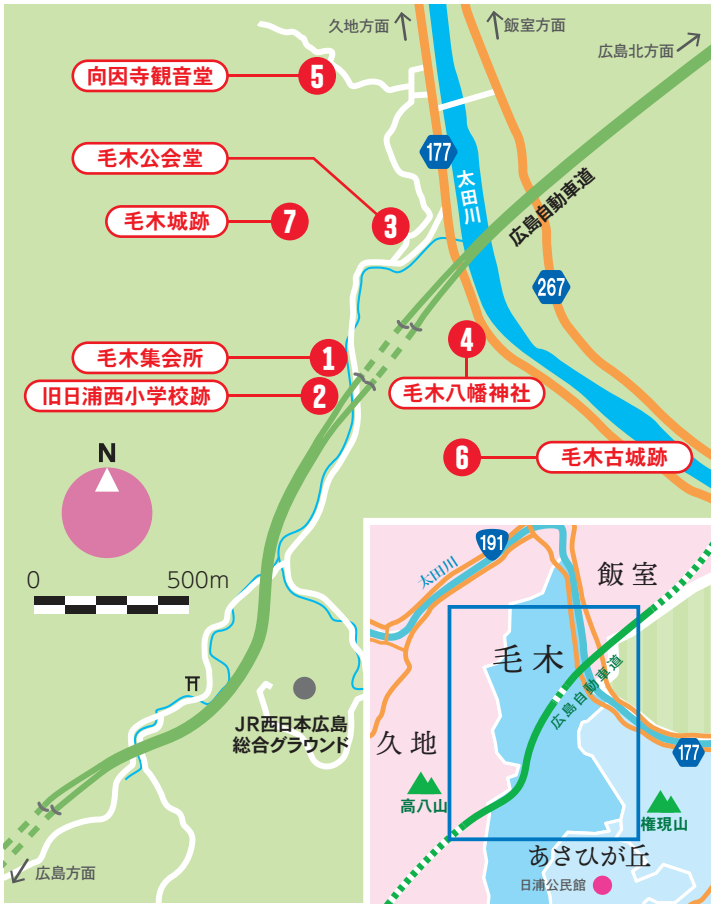
10 道標（石碑）（どうひょう（せきひ））

阿戸（戸山）地区（現安佐南区沼田町阿戸）への分れ道の道標。

毛木（けぎ）

農業以外の産業で栄えた小学校跡地は地域コミュニティに活用

太田川対岸から見た毛木地区。左に広島自動車道が見える



毛木は山に囲まれ、太田川とその支流毛木川の流域に位置し、西毛木とも呼ばれ現在、約90戸の集落です。

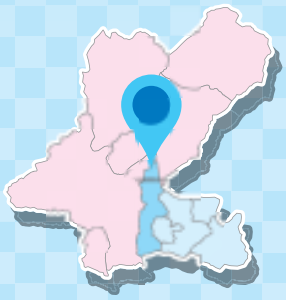
毛木村は鎌倉時代中期の「安芸国国衙領注進状」に「阿土毛木村」とあり、阿土（現在の安佐南区沼田町阿戸）と毛木村を合わせて国衙領でした。毛木村は、江戸時代から明治22（1889）年までの村名で、元和5（1619）年の「安芸国知行帳」では「け木村」とあります。明治22（1889）年4月1日、4か村（毛木村外3村）が合併し新しい村名は日浦村の大字毛木となりました。当時の産業としては、農業の他に川船稼業、紙透、山仕事のほか焔硝（えんしょう）も産出されました。また、葉藍（はあい）の栽培や藩の簗（やな）も設置されていたという。

最近では、毛木地区にあった旧日浦西小学校は明治7（1874）年の開校以来134年もの歴史を刻み、平成20（2008）年に閉校しました。跡地を利用して集会所が新築され、自治会等各団体の行事を実施するなど地域住民のコミュニティーの場として活用されています。跡地のグラウンドでは、グラウンドゴルフや地区民運動会等を開催し、特に昭和30年代から始まった運動会は60回を数える伝統の行事となっています。

車に気をつけて歩こう

毛木は道幅が狭くカーブが多いため歩いての散策は危険です。しかし、写真で紹介している場所については近距離であり、危険な所はわずかです。毛木古城跡については、急峻な地形であり、時間も要するので登山のつもりで行くことをお勧めします。

毛木公会堂（③）へ駐車し、個々を拠点にして散策すれば、1時間余りで見て回ることができるでしょう。



毛木 けぎ

大正時代の姿を今に残す
地域の集会施設

③ 毛木公会堂（けぎこうかいどう）

大正時代に建てられ、地域の唯一の集会施設として利用されてきた。集会所ができた現在も周辺地域のコミュニティーの場として活用されている。Ⓟあり

人口減少の波にのまれ閉校
跡地では地区運動会等を開催

② 旧日浦西小学校跡（きゅうひうらにししょうがっこうあと）

明治７（１８７４）年に開校した小学校だが、平成２０（２００８）年に１３４年の幕を閉じた。跡地では地区運動会やグラウンドゴルフ等に利用されている。

小学校跡地に建てられた
地域コミュニティの場

① 毛木集会所（けぎしゅうかいしょ）

旧日浦西小学校の跡地に平成22（2010）年に建てられた。建物内には仏壇もあり、地域のコミュニティーの場として活用されている。
Ⓟあり

太田川に流れ着いた観音様
地元が手厚く祀っている

⑤ 向因寺観音堂（こういんじかんのんどう）

毛木の総田原地区にあり、言い伝えによると、昔、太田川に流れ着いた観音様が見つかり、地区の人で供養したのが始まりという。今でも観音様が祀ってあり、毎年４月に地元の人たちがお経をあげ、花見をしている。

創建は室町時代初期　戦国武将の祈願所として栄える

④ 毛木八幡神社（けぎはちまんじんじゃ）

延元２（１３３７）年の創建という。天文年間は領主民部大輔の祈願所であったと言われる。その後、正保２（１６４５）年に再建され、現在に至っている。

毛木にはこれらの他、小祉が残されており、主なものを上げると次の通りである。

①若宮大幡神社（毛木深山口）
②恵比寿堂（才ノ原）
③薬師堂（毛木中組）
④住吉大明神（立野）
⑤恵比寿堂
　（毛木３区尾崎宅裏の山中）

また、才ノ原には JR 西日本広島総合グラウンドがあり、野球場や国際試合も可能なホッケー競技場がある。

戦国時代の山城跡
地元の毛木氏の居城

⑦ 毛木城跡（けぎじょうあと）

戦国時代の武将、毛木民部の居城と言われている。広島市教育委員会により調査が行われ、郭の構成等が明らかになっている。民家のすぐ近くであり見ることもできる。

毛木八幡神社の裏手
毛木小太郎の居城

⑥ 毛木古城跡（けぎこじょうあと）

毛木八幡神社のすぐ後方の山頂にあり、現在でも平坦になっており、城跡が確認できる。毛木小太郎の居城と言われる。
この城跡へ行くには後山の権現山からと毛木の中村宅の裏から行くことができる。

後山 うしろやま

野登呂山の「後ろ」にある集落の意 権現山には源平合戦ゆかりの神社

教雲寺墓苑から見る権現山中腹に咲くエドヒガンの花

後山という地名は野登呂山の後ろにある集落なので「うしろやま」と呼ばれるようになったと言われています。

安佐町日浦村

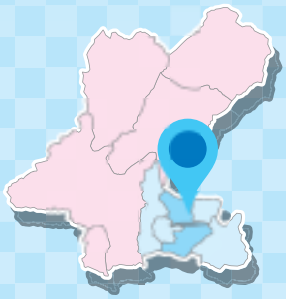
明治22（1889）年4月に沼田郡の後山村、毛木村、宮野村、筒瀬村の4つの村が合併し、沼田郡日浦村となりました。その後、明治31（1898）年には安佐郡日浦村となり、昭和30（1955）年に周辺の4か村と合併して安佐町となり、大字後山となりました。さらに広島市と合併し広島市安佐町となり、今日に至っています。

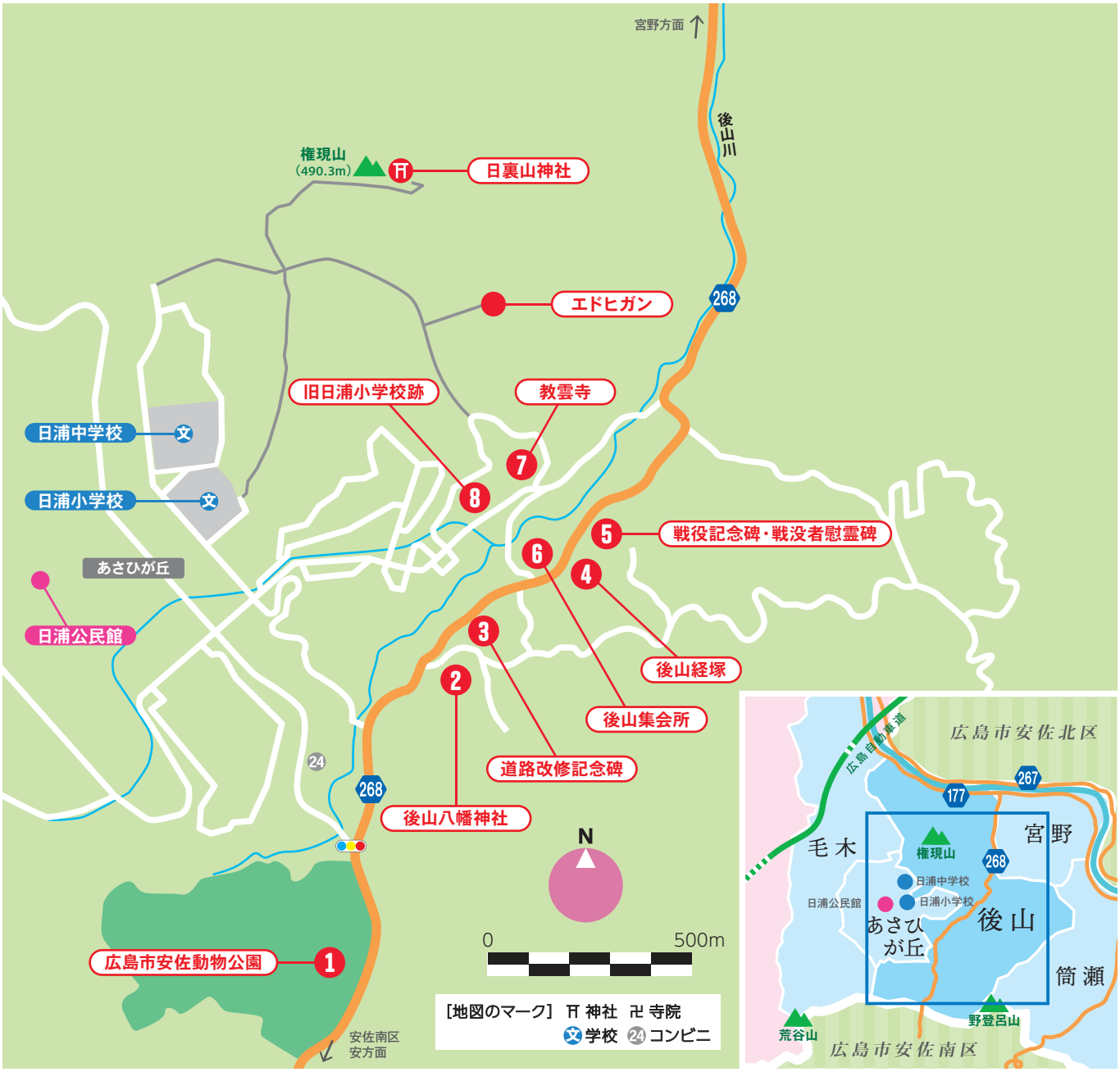
後山地区は周りを3つの山（権現山・野登呂山・荒谷山）に囲まれたすり鉢の底のような地形のところに出来た集落で急傾斜地が多く、土砂災害が心配される地形です。しかし、広島市が定める都市計画の市街化調整区域になっていることもあり、自然は豊かで昔のままの地形等が残されています。

昭和46（1971）年には広島市安佐動物公園が、同51（1976）年にはあさひが丘団地が造成され、広島市中央部との交通の便も飛躍的に便利になりました。自然が残された後山地区と豊かな緑に囲まれたあさひが丘住宅地域と相まって今後も発展が見込まれています。

権現山

後山地区を囲む3つの山の中で最も親しまれている山は権現山で、山頂には源平合戦にゆかりのある日裏山神社があります。また、平成23（2011）年には近辺では珍しい「エドヒガン」という大きなヤマザクラが権現山中腹で見つかっています。





春の権現山を淡く彩るヤマザクラ エドヒガン

この桜はソメイヨシノより少し早く咲き、遠くから見ると少しピンク色に見えます。地上1.3mでの幹周が4.4mあり、根元から複数の幹が生えている株立となっています。

桜の開花時期は３月下旬から４月中旬ごろで教雲寺墓苑の駐車場から歩いて約20～30分で行くことができます。道は整備されており、危険な所はありません。

日裏山神社へはさらに約30分で登ることができます。途中急な坂道もありますが、道は整備されています。

地元の2社を合祀 地域に親しまれる村社

2 後山八幡神社（うしろやまはちまんじんじゃ）

弘治3（1557）年、河野道忠が創立した東八幡宮と青木八幡宮とを大正5（1916）年に合祀して後山八幡宮と称するようになった。村社として古くから親しまれ、守られている。平成23年以降に、駐車場や舞殿が設置された。Ⓟあり

市内唯一の動物園 オオサンショウウオの繁殖も有名

1 広島市安佐動物公園（ひろしましあさどうぶつこうえん）

昭和46（1971）年、後山住民の大きな協力のもとにできたもので、今日では広島市唯一の動物公園として広く親しまれている。この動物園は、サイなど多くの繁殖記録があり、オオサンショウウオの繁殖も有名。

禅宗のお寺の跡地 経典を埋納か

4 後山経塚（うしろやまきょうづか）

ここには、現在の教雲寺の前身とされる禅宗のお寺があった所で、今でも先坊山（せんぼうやま）と呼ばれている。経塚とは経典を供養して地中に埋納し、塚を築いたものといわれる。

道路拡幅の記念 バスも通り、生活が飛躍的に向上

3 道路改修記念碑（どうろかいしゅうきねんひ）

大正5（1916）年に垰地区から後山川が太田川へ注ぐ付近の川崎地区までの後山地区の道路が拡幅された記念碑である。これでようやく自動車の通れる道（現在の県道268号線）ができた。その後、昭和4年ごろから、バスも一部通るようになった。

地域の集会所 趣味のグループ活用

6 後山集会所（うしろやましゅうかいしょ）

後山唯一の集会所で、昭和55（1980）年に作られ、地元自治会の運営で管理されている。女性グループによる大正琴や日本舞踊などで利用されていたが、最近は利用者が減少している。Ⓟあり

後世へ伝える石碑 毎週続けられる献花

5 戦役記念碑 戦没者慰霊碑（せんえききねんひ・せんぼつしゃいれいひ）

日清日露戦争、日中戦争、太平洋戦争による日浦地区の戦没者及び動員学徒の原爆戦没者の霊が祀られている。戦役記念碑は大正11（1922）年に設置され、昭和46（1971）年には原爆で亡くなられた学徒の霊も合祀（戦没者慰霊碑）され、現在も後山地区の住民が毎週1回献花を続けている。

創立以来百年の学び舎跡 あさひが丘へ移転

8 旧日浦小学校跡（きゅうひうらしょうがっこう）

あさひが丘の団地内へ昭和52（1977）年に移転するまで百年以上にわたり日浦小学校があった場所である。

江戸時代に火災にあうも 百年後に再建、今に至る

7 教雲寺（きょううんじ）

教雲寺畧縁起（りゃくえんぎ）によると宇治の黄檗山萬福寺（おうばくさんまんぷくじ）の僧賢禅師が建立し、萬福山光明院と号したという。天正元（1573）年、現在の地に移転したとされている。享保3（1718）年、火災にあい、文化10（1813）年に本堂再建、平成21（2009）年には平成の大修復事業が行われた。

権現山山頂の日裏山神社 かつては流鏑馬神事を奉納

日浦の権現山は標高が490.3mと比較的低く、正面から見れば山頂部がなだらかで緩やかな山に見えるが、全体に急峻な地形であり、東側から見ると山容が全く変わり、急峻な姿が見られる。

山頂からの眺望

権現山の山頂に日裏山神社があり、近辺では最も古い神社とされる。創建は後鳥羽天皇の御代文治3（1187）年、屋島の合戦による平家の敗残の将士宗像石見守外19名がこの地に逃避し、現在の社から約100m下がった地点に社をつくり、「熊野権現」と称してひそかに祀ったと言われている。守護神は「正一位御子熊野速玉男大神、正一位熊野扶住須美大神」である。

その後、「後呂山権現」となり、明治4(1871)年に「日裏山神社」と改名され、「ごんげんさん」の名前で親しまれている。古くは流鏑馬（やぶさめ）も行われ、武士の参詣者が多かったと言われているが、最近は毎年春に山頂で春祭りを行うが、参拝者は少ない。

日裏山神社本殿

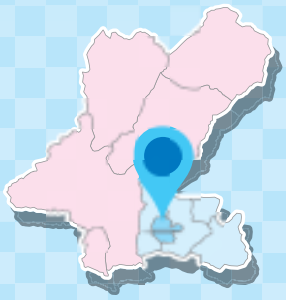
春祭りの様子

後山地区には以上のほか
①川平神社　②河内神社　③薬師堂　④地神堂　⑤権現山鉱山跡　⑥大ヤブツバキ　⑦小西養鯉場 などがある。

あさひが丘

あさひがおか

当時西日本最大規模の団地 近年では若い年代の入居も



あさひが丘は毛木・後山地区に農業を守りながら都市化に対応すること、そして広島市のベットタウンとしての役割を果たす町づくりのため、昭和46（1971）年に農住都市団地計画がなされ、昭和48（1973）年に約146haの造成に着手、昭和50（1975）年12月20日に入居が始まりました。そして昭和51（1976）年11月、当時の安佐町の人口1万数千人が2万数千人になる団地として完成。これは当時としては西日本最大規模の団地でした。

昭和53（1978）年6月には1千世帯を超えた世帯数は平成14（2002）年には3千世帯を超えました。人口は平成4（1992）年の8千9百人をピークに、その後はやや減少傾向にあるものの近年では若い年代の入居者が増加するなどで、平成30（2018）年では3千世帯、人口6千7百人となっています。

「あさひが丘」の名称は、安佐町の「あさ」と日浦村から「ひ」を取り入れて命名されました。

あさひが丘の完成記念で作られた旧安佐町民センターホールの緞帳。
今は安佐公民館のホールにある

春には満開の桜の下、さくらまつりが催される。町民の憩いのひと時

地域の団結力を高める「大運動会」。毎年、秋に開催され、多くの町民が参加
写真は平成26（２０１４）年の様子

近隣公園で行われている「とんどまつり」。町民の冬の楽しみとなっている

上空から見たあさひが丘：平成５（1993）年撮影

あさひが丘開発の基本構想となった農住都市構想

農住都市構想は農家と農協が主導する都市近郊農村の新たな地域社会づくりのことで、昭和45（１９７０）年、都市化に直面する都市近郊の農村の再編策として提唱されました。

安佐町では昭和46（１９７１）年頃より始まった乱開発に対応するため、農住団地が単に宅地の提供だけにとどまらず、団地内だけでなく周辺農村に自然の保護と生活環境の向上をもたらすよう、安佐町の特産である「花木」を生かした個性ある街づくりを目指しました。

宮野 みやの

江戸時代は広島藩の直轄地 用水路完成により稲作始まる

宮野地区の集落　太田川沿いに集落が形成されている。川は集落の先端付近で山側がえぐられて大きく蛇行している。太田川が運んできた沖積台地で、川では昔からアユ漁が盛んで、住民の収入源の一つとなっていたが、近年は水量減少とともにさびれている

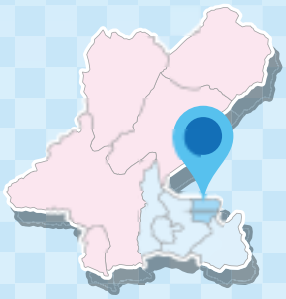
宮野は太田川右岸に位置し、30戸ほどの小さな集落です。江戸時代は広島藩の直轄地で蔵入地（年貢を直接、藩へ納める地）とされていました。元和６（１６２０）年、福島正則の時に村を「蔵入」「明知」「給地」に区分したことに始まります。なぜ、この小さな集落が蔵入地とされたのか明確なことは不明ですが、推測すれば、集落の東側を流れる太田川で落ちアユを取る藩直営の簗（やな）が上流の毛木と交代で設置されていたためではないかと考えられます。簗が設置されたため、３～９月は禁漁とされ、冬から春までのわずかな期間だけ雑魚を取って生計の助けとしていました。その頃は、まだ水田もなく、畑で麦、あわなどを作り、楮紙（こうぞし）（和紙）や竹器の製造や川からの収入が貴重なものであったと思われます。

この地域は川が近くにありながら水田を作ることが出来ず、畑作中心であったが、大正５（１９１６）年に時の部落会長であった林四郎氏の尽力により、後山川からの用水路が完成し、念願の米作りが行われるようになりました。

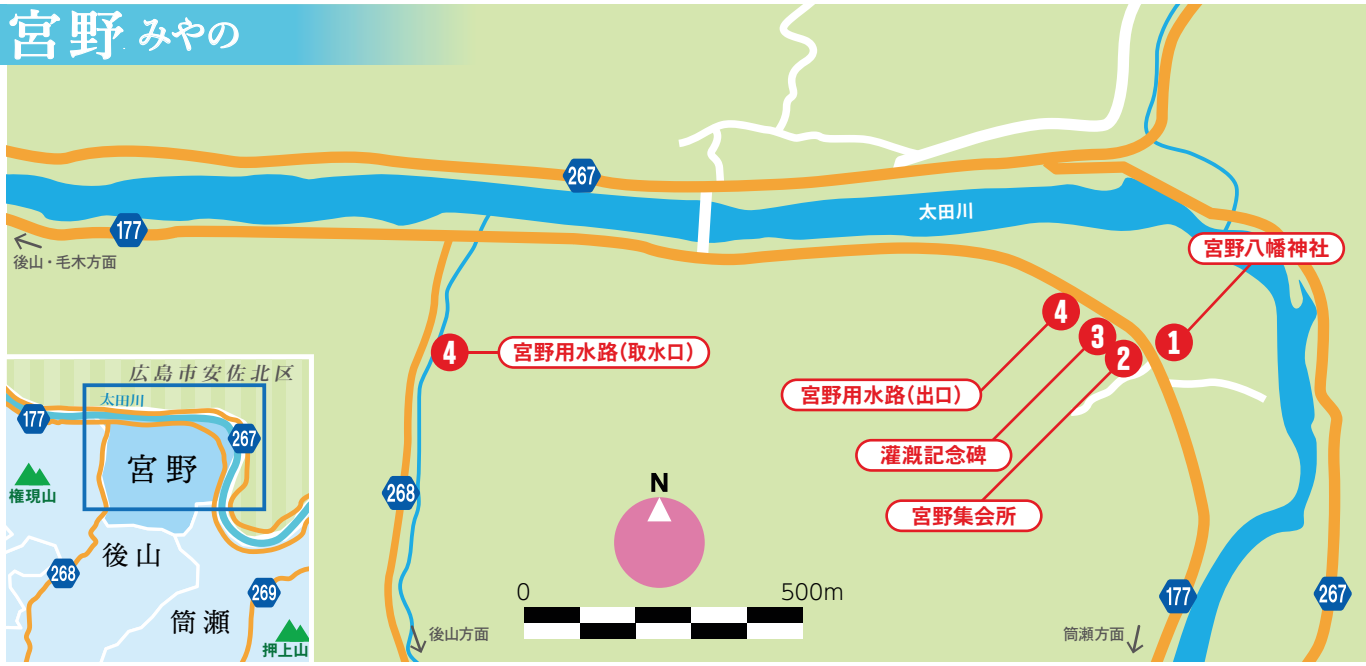
創建以来の鎮守の大エノキ
樹齢約４８０年は県下２位

1 宮野八幡神社（みやのはちまんじんじゃ）と大エノキ（おおえのき）

河野道忠により弘治３（１５５７）年に創建されたもので、現在でも春と秋にお祭りが行われている。神社の境内に樹齢約４８０年で県下第２位と言われる大エノキがある。この付近の自然植生が残されたものと思われ、市指定の天然記念物となっている。樹高３０m、幹周4.2m。



宮野 みやの



私財を投じ用水路を完成 功績を称える記念碑

3 灌漑記念碑（かんがいきねんひ）

２年の歳月をかけた用水路の完成に私財を投じ、地域のために尽力された当時の部落会長の林四郎氏の功績を称え、完成を記念して大正５（１９１６）年に建立された。

地区にひとつの集会所 子どもたちの遊び場にも

2 宮野集会所（みやのしゅうかいしょ）

地区唯一の集会施設で県道１７７号線沿いにある。元、林四郎氏宅を利用した公会堂から集会所へと所管替えとなり現在に至っている。公園も兼ねている。Ⓟあり

用水路開通で念願の米作り 地区住民が交代で維持管理

4 宮野用水路（みやのようすいろ）

後山川から取水された水は1.8ｋｍ隔てた灌漑記念碑のすぐ近くまでコンクリートの水路で導かれている。
この水路の維持管理には年間通して地区住民が交代で務めている。
取水口は後山川の下流域である松尾産業の下あたりで、県道からもよく見える場所にある。

宮野用水の取水口

宮野用水の出口

筒瀬 つつせ

江戸時代以前から厳島神社の社領
筒瀬八幡神社は市重要有形文化財

太田川左岸から見た筒瀬八幡神社の社叢

地区の歴史

戦国時代に「つゝせ」の地名が見られ、安芸国佐東郡のうちとなっています。地名の由来については明らかなものはありません。安岐国造が安芸国を支配していた当時の筒瀬は佐伯部氏の郷として「若佐郡」と呼ばれていました。（筒瀬小学校百周年記念誌）これらのことから、江戸時代以前から厳島神社の社領としての性格が強かったようです。

筒瀬村は明治22（1889）年4月に後山村、毛木村、宮野村と合併し日浦村となりました。その後、数度の郡や村の廃置分合を経て、昭和55（1980）年に広島市安佐北区安佐町大字筒瀬となり、現在に至っています。

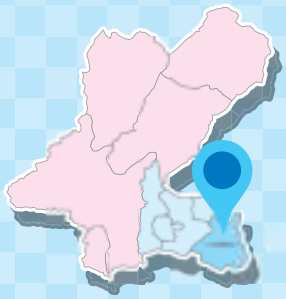
安芸木綿を生産

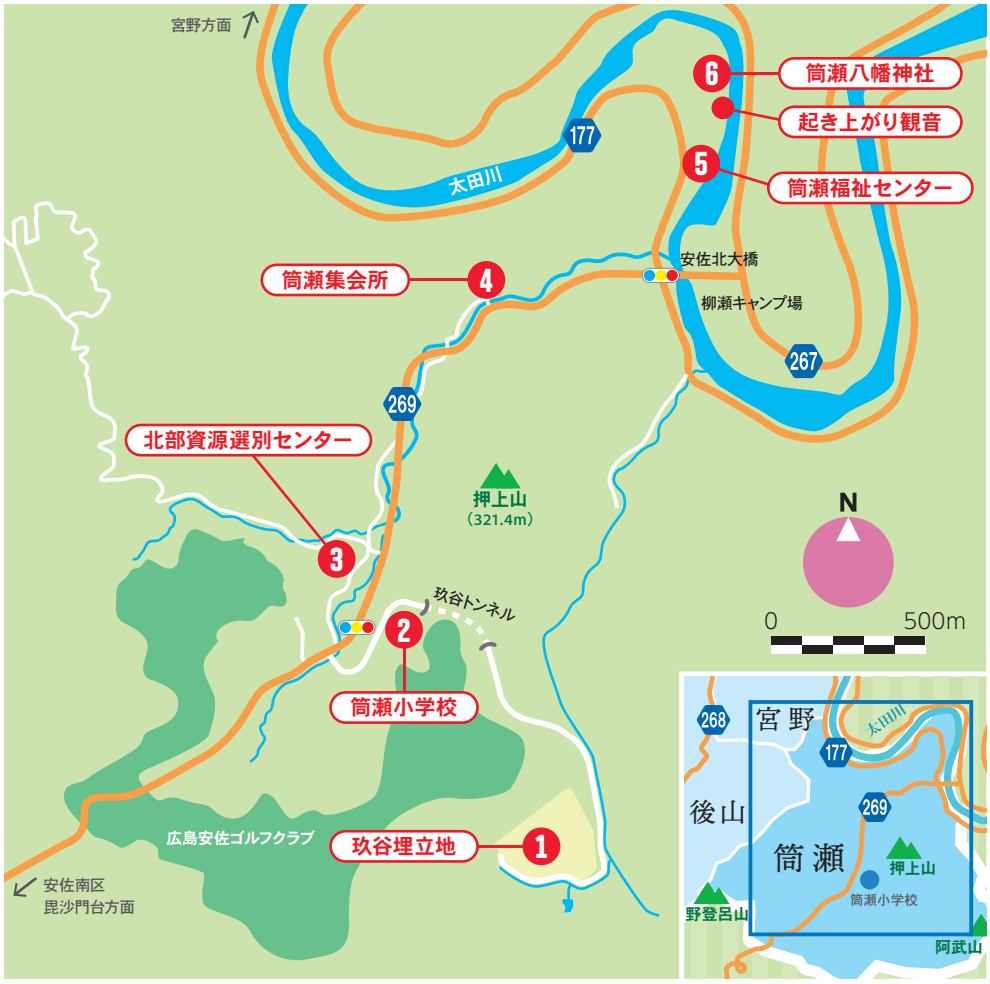
江戸時代の産物としては、当時の年貢として納められた「安芸木綿」は筒瀬でも多く生産され、コウゾ、ミツマタ、ガンピを原料にして作られた布で、当時は貴重品でした。また、「後山行李（こうり）に筒瀬籠（かご）」と言われ、籠などの竹製品を製造し、諸口紙（もろくちがみ）、半紙も生産していました。太田川では舟運も行われていました。

地域内には広島市の重要有形文化財の筒瀬八幡神社があり、また、同社境内の社叢林は広島市の天然記念物にも指定され、貴重な自然植生を残しています。

進む開発

昭和46（1971）年には広島中央ゴルフ場（現広島安佐ゴルフクラブ）が、また昭和59（1984）年には広島市の家庭ごみの最終処分場（玖谷埋立地）建設の合意がなされ、筒瀬が脚光を浴びることとなりました。その後、玖谷ごみ埋め立て事業に関連した地元対策事業により筒瀬地区は大変革を遂げ、住民の生活環境が大きく変化しました。





市の家庭ごみ最終処分地 焼却灰を埋立処分

1 玖谷埋立地（くだにうめたてち）

広島市の家庭ごみの最終処分地として平成２（１９９０）年から埋め立てが始まり、今日まで約３２万㎥が埋め立てられている。
ここでは、不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等について埋め立てを行っている。

玖谷埋立地と歩む

玖谷埋立地は毎日の生活の中で出る不燃ごみと可燃ごみを焼却した後の灰（焼却灰）等を埋立処分する施設です。平成２（１９９０）年４月に埋立処分を開始し、今年度末で30年を迎えます。

施設建設にあたり昭和50年代後半、市から埋立地建設に関する申し入れがあり、筒瀬親和会が市と協議を行いながら地区住民間で議論を重ねました。

当地区の住民としては心情的には受け入れがたいが、市民生活の基盤を支える必要不可欠な施設であり、地域環境の整備を進めながら地域の発展と住みやすい地域づくりに取り組むとして、昭和58（１９８３）年７月、埋立地建設に合意しました。

埋立地を受け入れるにあたり、地区内の道路や上水道、農業用水路等の整備、日浦東小学校（現筒瀬小学校）の移転新築、集会所の建設、バス路線の整備、筒瀬総合福祉センターの建設などの地域環境整備事業が行われました。

平成17（２００５）年に埋立容量を増やし、埋立期間を15年延長。これまで約１８０万トンの廃棄物を埋立処分しました。令和２（２０２０）年３月末でその役目を終える予定でしたが、佐伯区湯来町に建設している次期埋立地の竣工が遅れているため、玖谷埋立地の使用期間の延長の申し入れがありました。二度目の埋立期間の延長に、次期埋立地の建設が進められていることや今までと同様に市民生活に貢献していくため、苦渋の決断ながら埋立期間の延長に合意しています。令和３（２０２１）年には埋立処分が終了する予定です。その跡地はサッカー場やグラウンドゴルフ場としての活用が計画されています。

筒瀬地区には玖谷埋立地と同じ時期に開設された資源ごみの選別を行う北部資源選別センターがあり、玖谷埋立地が埋立終了後も稼働し続ける予定です。

玖谷埋立地が開設されてからの30年間、筒瀬地区は広島市のごみ処理の重い負担を背負ってきました。埋立が終了すると玖谷埋立地のない筒瀬地区の地域づくりが始まります。

筒瀬新和会は、跡地を地区内外の人が集まる地域おこしの拠点として将来の地域の発展に寄与するよう、市へ働きかけていきたいと考えています。

木造校舎で豊かな自然環境を生かしたユニークな学習が注目 区域外からも入学可能なオープンスクール

❷ 筒瀬小学校（つつせしょうがっこう）

筒瀬小学校は戦後に日浦東小学校と校名が変更されたが、平成２（１９９０）年には再び筒瀬小学校となり、現在地に木造校舎として移転した。平成１０（１９９８）年からはオープンスクールとして地元以外からも児童を募集し、ユニークな教育が注目されている。

地域の福祉施設 飯室出身の画家のギャラリーも

❺ 筒瀬福祉センター（つつせふくしせんたー）

平成２３（２０１１）年度に地域の福祉施設として広島市が設置した。日浦地区を中心として利用されている。施設内には飯室右平地区出身の画家、佐々木邦彦氏のギャラリーが設けられている。

地区内唯一の集会施設 照明施設完備のテニスコート

❹ 筒瀬集会所（つつせしゅうかいしょ）

筒瀬地区唯一の集会所で、筒瀬川沿いにあり、テニス場が併設されており、夜間の照明施設も完備されている。

家庭からの資源ゴミを分別 自己搬入も可能

❸ 北部資源選別センター（ほくぶしげんせんべつせんたー）

平成２５（２０１３）年に作られた施設で家庭から出た資源ごみを集め、紙類、布類、アルミ類、鉄類、生ビン、ガラス類に分別する施設です。資源ゴミは直接資源選別センターへ自己搬入することができる。

流された観音様の言い伝えを信じ 水中から引き上げた不思議な石

起き上がり観音

この地区では古くから川の上流にあった観音様が災害で太田川に流され、「川の水は冷たい。早く引き上げてくだされや。重い体ではあるが、もみ殻俵一俵の重さになります。弘法岩の下手で待っております」という言い伝えがあったと言われる。

平成３年の夏、信仰心の厚い可部在住の中本進氏が鮎釣り中、異様な岩にふと気づき、目を凝らして見ると見えなくなる不思議な因縁に時を過ごし、石の全容を確認し仏縁の尊さに全身に硬直を覚えた。

その後、有志にはかり、秋には水中から引き揚げて筒瀬部落の守護神として尊崇する事となったという。

（石碑に刻まれた由緒による）

すぐ横を太田川が流れる
鎮守の杜は市の天然記念物

6 筒瀬八幡神社（つつせはちまんじんじゃ）

鳥居の正面に拝殿と本殿がある。その奥が広島市の天然記念物に指定されている広葉樹の古い森（社叢）がある。境内は狭くすぐ東側を太田川が流れている。
左の写真は拝殿

筒瀬地区にある重要有形文化財と天然記念物

筒瀬八幡神社の本殿
（広島市重要有形文化財）

本殿の腰組がこの地方では見られない大規模社寺建築に見られるような精巧な構造になっている。専門的には、三手先（三方に回した縁を支えるために組物を三段持ち送った形）で構成されている。

指定時の調査者は「彫刻の絵模様から見ても江戸中期の様式を十分に表している。向拝上の蟇股や妻飾大瓶束等は時代の代表として優たるものである。特に腰組の立派なことと向拝の蟇股及び大瓶束は江戸中期の良作と思われる」と述べられている。

筒瀬八幡神社の社叢（広島市天然記念物）

昭和52（1977）年に広島市の天然記念物に指定されている。

社叢の広さは南北60m、東西40mでわずかではあるが、この地方の潜在植生と考えられる植生が見られ貴重なものとなっている。

高木にはアラカシが優先し、タブノキ、ナナメノキ、シロダモ等が多い。低木にはアラカシ、ヤブツバキ、ネズミモチ、アオキ、イヌビワなど暖帯系の植生となっている。

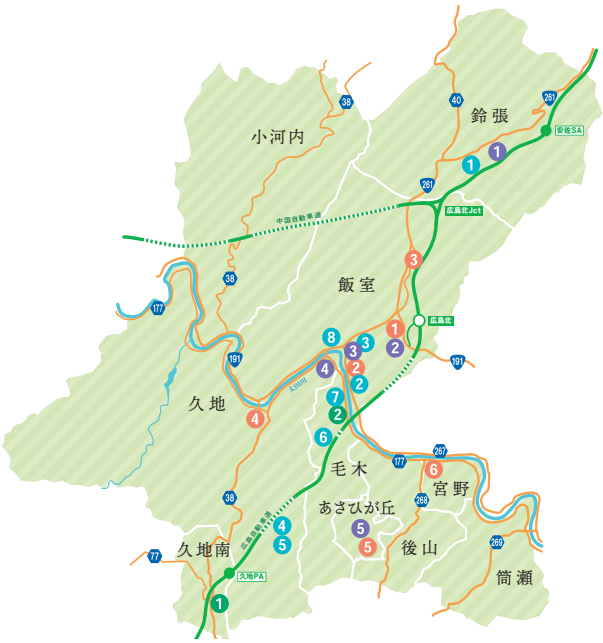
■樹木の胸高幹周と本数　（広島市天然記念物指定時・昭和 52 年）

アラカシ（1.25～2.00m、10本）	タブノキ（2.82～3.10m、2本）
アカガシ（1.5m）	クスノキ（2.48m）
ナナメノキ（1.10～1.42m、2本）	エノキ（2.67m）
クロガネモチ（1.83～1.97m、2本）	

安佐町の魅力再発見

《 お食事処 》

ちょうどお腹がすいてきたころではありませんか。
安佐町グルメをご賞味あれ。



8 ROMUI（ロムイ）
住 飯室 2905　営 9:00 ～ 15:00　土・日曜のみ開店

ROMUI（ロムイ）は平成15（2003）年12月1日、JR可部線の可部駅～三段峡駅間が廃線となった後、旧JR安芸飯室駅の駅舎やホームをそのまま残して開かれたカフェテラスです。地元で採れた新鮮野菜や手作り雑貨の販売、コンサートやマルシェなどの各種イベントを開催し、開店日には地元内外から多くの人が訪れる憩いの場です。

和食・うどん

1 あゆ茶屋
住 飯室 1592　☎810-2018
営 10:00 ～ 18:00　休 なし

2 お食事処 ひらお
住 飯室 2704-1　☎835-3520
営 11:30～14:00,17:00～20:00　休 木曜

3 食事処 まんま
住 飯室 4381-1　☎なし
営 11:30 ～ 19:30　休 不定

4 お食事処 こばやし
住 久地 6714-2　☎837-0018
営 11:30～14:00,17:00～23:00　休 日曜,祝日

5 初見鮨
住 あさひが丘 4-12-31　☎838-0130
営 11:30～14:00,17:00～21:00　休 月曜

6 お食事処「はま」
住 宮野 248-2　☎838-0911
営 11:00～14:00,17:00～20:00　休 火曜

中華・ラーメン

1 中華そば〇久地店
住 久地 185-4　☎090-3744-2794
営 11:30～14:00,18:00～24:00　休 第3火曜

2 らーめん・ぎょうざ 喜味喜
住 毛木 241-1　☎837-3789
営 11:00 ～ 21:00　休 月曜

洋食・喫茶・カフェ

1 イタリア料理 チャオ！チャオ！
住 鈴張 1838　☎562-2021
営 11:00～14:30,18:00～21:30　休 火・第3水曜

2 カフェ マロン
住 飯室 2677-2　☎090-8600-7883
営 11:00 ～ 17:00　休 土・第1・3金曜

3 街
住 飯室 3412-1　☎835-0426
営 8:00 ～ 19:00　休 木曜,日曜午後

4 sabo cafe
住 久地 3520-80　☎090-8609-8783
営 10:00 ～ 16:00　休 火・水曜

5 YOU taruto
住 久地 3520-80　☎090-7136-9599
営 11:00 ～ 14:00　休 不定

6 cafe 山帰来
住 毛木 812　☎837-1323
営 12:00 ～ 18:00　休 火・水曜

7 ドゥレウリ
住 毛木 95-1　☎837-1531
営 11:00 ～　休 問合せ

お好み焼き

1 お好み焼き すず
住 鈴張 1847-2　☎835-0226
営 11:00～14:00,17:00～21:00　休 月・火曜

2 お好み焼き もっこ
住 飯室 1592　☎810-2048
営 10:00 ～ 18:00　休 なし

3 焼茶 うえ
住 飯室 3041-3　☎835-0201
営 11:00 ～ 16:00　休 水・日曜,祝日

4 お好み焼き 幸
住 久地 6473-1　☎837-2520
営 11:00～14:00,17:00～21:00　休 木・第1日・第3水曜

5 ムーミン
住 あさひが丘 3-12-17　☎838-3113
営 10:30 ～ 18:00　休 水曜

参考文献

安佐北　おがうち【安佐北区役所農林課】
安佐町史【広島市役所】
安佐町の文化財【古川重行】
飯室小学校百年誌【飯室小学校開学百周年記念事業実行委員会】
小河内氏【古川重行】
小河内村現勢誌【河野安藝男】
角川日本地名大辞典【角川書店】
久地の昔【久地小学校図書室】
コープタウンあさひが丘【安佐町農業協同組合】
国郡志御用ニ附下調書出帳
国郡志御用につき下調べ書出帳【可部郷土史研究会】
地元芸術家　絵画・彫刻展【広島市安佐北区民文化センター】
沢田【古川重行】
鈴張小学校創立百周年記念誌「すずはり」【広島市立鈴張小学校】
創立十周年記念誌くちみなみ【久地南小学校創立十周年記念事業実行委員会編集部】
筒瀬（創立百周年記念誌）【広島市立日浦東小学校】
筒瀬（第二集）筒瀬小学校120周年記念誌【筒瀬小学校120周年記念事業実行委員会】
沼田町史【広島市役所】
日浦（日浦小学校創立百周年記念誌）【広島市立日浦小学校】
百年誌くち【久地小学校】
広島県市町村合併史【広島県市長会「ほか」】
復刻芸藩通志【「芸藩通志」刊行会】
ふるさとを訪ねて　～広島～【（株）泰光堂】
湯来町史【湯来町】
わが町の姿　～その過去・現在・将来～【安佐町新しいコミュニティづくり推進協議会】

あとがき

本誌の作成に当たり、安佐町郷土史研究会をはじめ、各地区の自治会や連合自治会、社会福祉協議会、女性会等地域団体や個人の皆さまに情報や写真の提供のみならず、助言等多大なご協力をいただき、ようやく完成の運びとなりました。

作成委員一同、心より感謝申しあげます。

最後になりましたが、今回の散策マップ発行に当たっては、広島清和ライオンズクラブ様に格別の御配慮をいただきましたことを申し添え、「あとがき」といたします。

令和元年９月

安佐町散策マップ作成委員会
委員長　安福 孝昭

安佐町散策マップ作成委員会

委員長	安福 孝昭	（安佐公民館運営委員会）
副委員長	山本 忠義	（安佐町郷土史研究会）
委　員	内藤 一郎	（安佐公民館運営委員会）
委　員	福本 洋雄	（安佐公民館運営委員会）
委　員	向井 千恵美	（安佐公民館運営委員会）
委　員	元木 久志	（安佐公民館運営委員会）
委　員	古川 行洋	（安佐町郷土史研究会）
委　員	大石 康朗	（広島安佐商工会）
委　員	免田 洋子	（プラットホーム安芸飯室運営委員会）
委　員	中田 幸治	（元安佐公民館）
委　員	新谷 好史	（日浦公民館）
委　員	田中 秀雄	（安佐公民館）
編　集	杉田 康之	（すぎたや本舗）

安佐公民館　広島市安佐北区安佐町大字飯室 3455-1
電話 082-835-0111

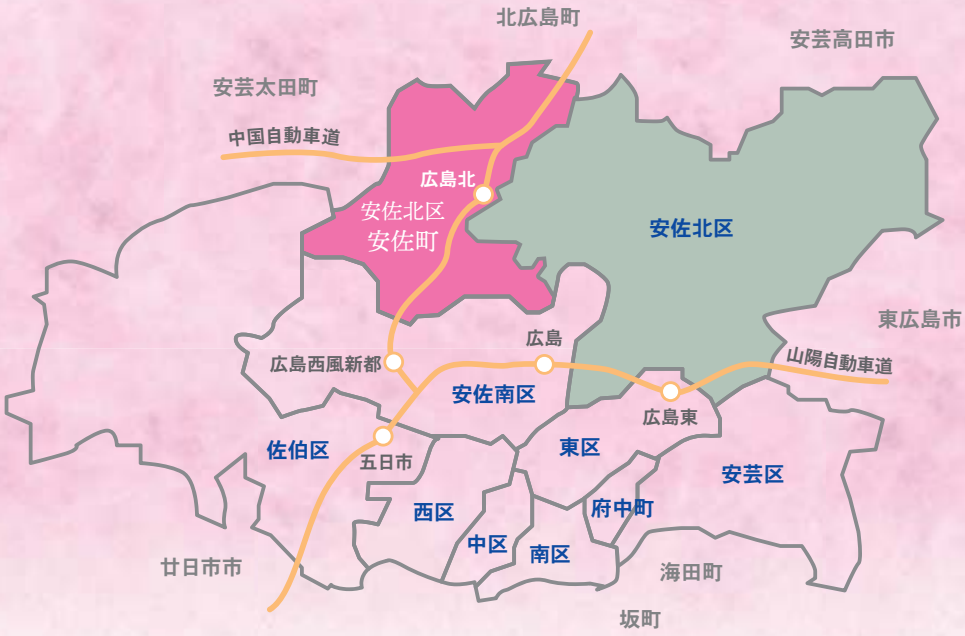
日浦公民館　広島市安佐北区あさひが丘３丁目 23-13
電話 082-838-3220

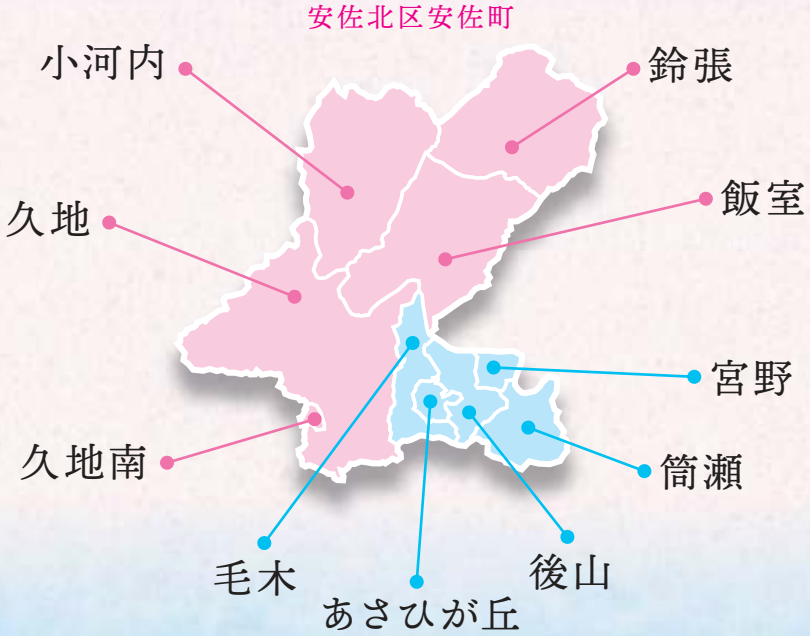
各地区の紹介施設等についてのお問い合わせは、
安佐公民館または日浦公民館へご連絡ください。

ふるさと　まち歩き　安佐町の魅力再発見

広島市安佐公民館開館50周年記念事業
広島清和ライオンズクラブ25周年記念事業

発 行 日 / 令和元（2019）年 10 月 1 日
企画作成 / 安佐町散策マップ作成委員会
発　　行 / 広島市安佐公民館運営委員会
発行協力 / 広島清和ライオンズクラブ





ふるさと まち歩き 安佐町の魅力再発見

広島市安佐公民館開館50周年記念事業
広島清和ライオンズクラブ25周年記念事業